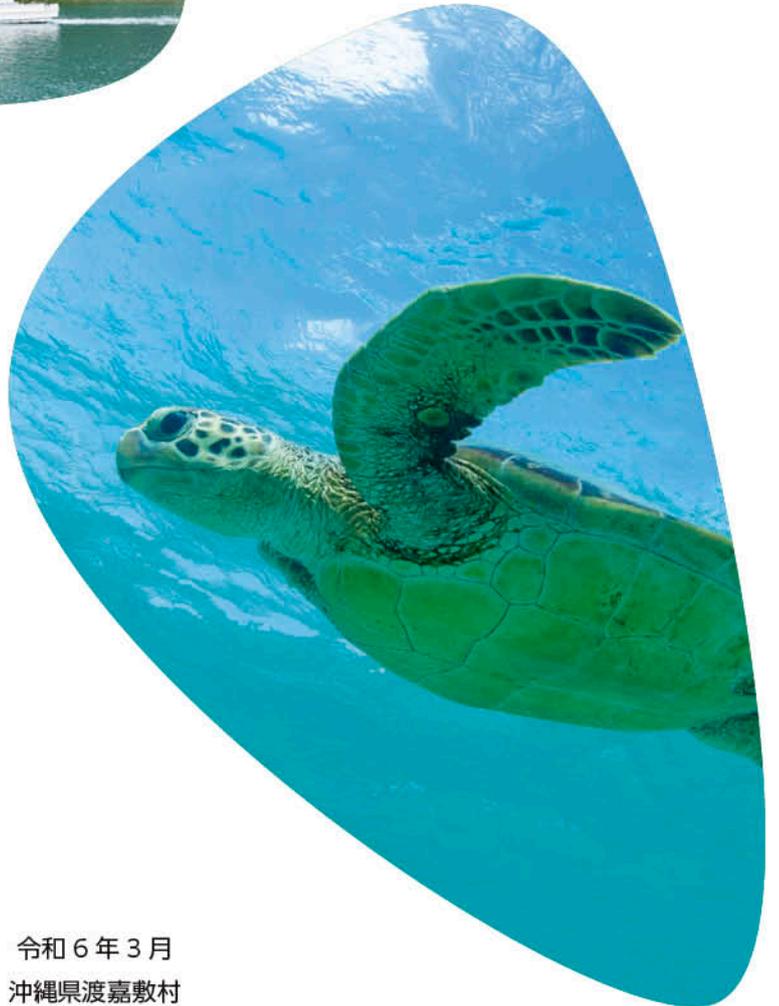


第二次

渡嘉敷村 観光振興計画

2024-2028



令和6年3月
沖縄県渡嘉敷村

第二次 渡嘉敷村 観光振興計画

2024-2028



目次

第1章 計画策定の基本的な考え方	1
1-1 計画策定の背景と目的	2
1-2 計画の構成と期間	3
第2章 渡嘉敷村観光の現状と課題	5
2-1 上位関連計画	6
2-2 渡嘉敷村観光振興計画の進捗評価	14
2-3 渡嘉敷村の観光状況	18
2-4 渡嘉敷村の観光関連調査結果	26
2-5 渡嘉敷村の観光課題の整理	43
第3章 第二次渡嘉敷村観光振興計画	45
3-1 基本理念	46
3-2 基本方針	47
3-3 基本施策と取組みの体系	48
3-4 具体的な取組み内容	49
3-5 取組みの効果を検証するための目標値	64
第4章 観光振興計画推進に向けて	67
4-1 推進体制	68
4-2 進捗管理	69
第5章 資料	71
5-1 計画策定の経緯	72
5-2 計画策定の策定委員	73
5-3 パブリックコメントでの意見	76

第 1 章 計画策定の基本的な考え方



1-1

計画策定の背景と目的

本村は、豊かな自然に恵まれているとともに、特有の生態系、並びに固有の文化・歴史等、他にはない様々な観光資源を有しています。平成26年3月5日には、渡嘉敷村と座間味村からなる慶良間諸島が全国で31番目の国立公園に指定され、平成28年には、国立公園を世界水準のナショナルパークとしてブランド化することを目的とした「国立公園満喫プロジェクト」に選定され、国内外からの観光客が増加しました。

これに伴い、自然環境や住民生活の保全を図りながら、観光に関わる様々な団体・事業者が秩序立てて観光振興に取り組めるよう平成29年度には「渡嘉敷村観光振興計画」が策定され、各施策を進めてきました。

しかし、平成31年度から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症により、観光を取り巻く状況は一変し、国内外で観光行動の停止や自粛が余儀なくされ、本村の観光産業にも大きな影響がありました。その後、幸いにも感染は収束に向かい、国の旅行支援や水際対策の緩和などにより、観光需要は順調に回復しつつあります。

一方で、新型コロナウイルス感染症がもたらした観光産業への影響は大きく、観光客の観光に対するニーズや動向も変化するとともに、人手不足の深刻化や急速なデジタル化への対応など新たな課題も生まれています。

また、経済や社会、環境とのバランスを図る「持続可能な観光」の重要性も高まっています。観光事業者や関連団体だけが恩恵を受けるのではなく、自然環境や村に残る歴史や文化を守りつつ、島内に住む人々の生活がより豊かになる観光振興を推進していくことが重要です。

このような背景のもと、「渡嘉敷村観光振興計画」の成果や課題を継承しつつ、アフターコロナにおける本村の観光を取り巻く環境変化をあらためて把握し、現状に即した観光振興のこれからの方向性を示すため、「第二次渡嘉敷村観光振興計画2024-2028」を策定します。

1-2

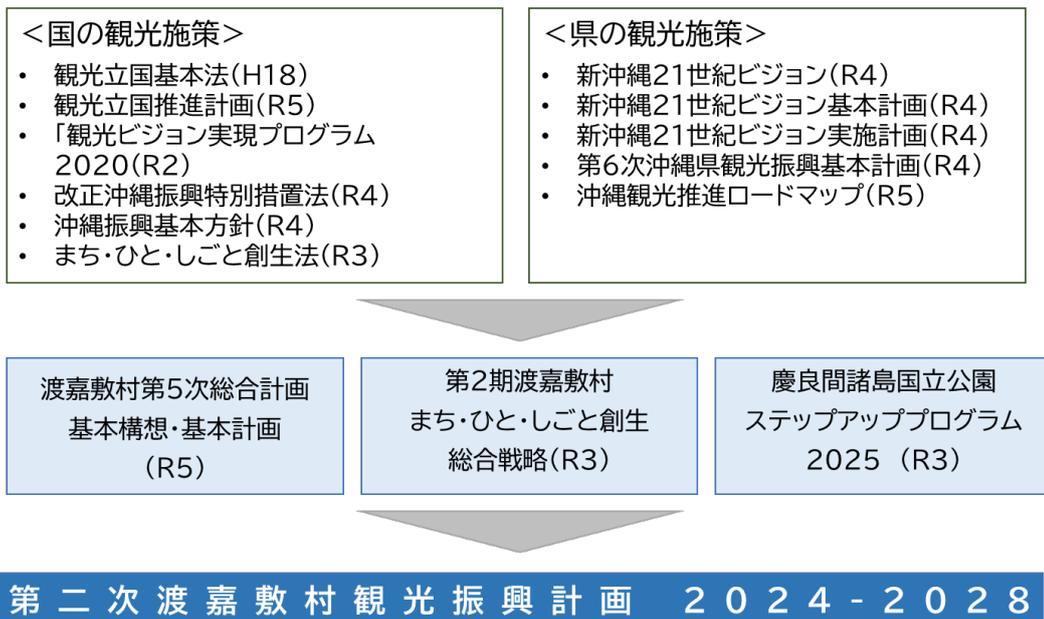
計画の構成と期間

(1) 計画の構成

第二次渡嘉敷村観光振興計画 2024-2028 は「基本理念」「基本方針」「基本施策」「具体的な取組み」で構成します。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「渡嘉敷村第5次総合計画」「第2期渡嘉敷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」「慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム2025」に基づいた計画であるとともに、国や沖縄県の観光施策についても考慮して策定するものです。



(3) 計画の期間

本計画の計画期間は、令和6年度から令和10年度までの5か年とします。ただし、社会情勢の変化等により、必要に応じて見直しの検討も行います。

第 2 章 渡嘉敷村観光の現状と課題



2-1 上位関連計画

(1) 第6次沖縄県観光振興基本計画

沖縄県では、「世界から選ばれる持続可能な観光地」を目指す将来像に設定し、その実現に向けた施策の基本方向と、圏域別の基本方向を示しています。

目指す将来像

「世界から選ばれる持続可能な観光地」
-世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-

施策の基本方向

- ① 安全・安心・快適で SDGs に適応した観光地マネジメント
- ② 多彩かつ質の高い観光に向けた DX の推進
- ③ 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進
- ④ 基盤となる旅行環境の整備
- ⑤ 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応
- ⑥ 人材育成と人材確保の推進

南部圏域の基本方向

慶良間諸島におけるダイビングやホエールウォッチングに代表されるエコツーリズム、久米島の海洋深層水を活用した保養・療養型観光など、特有の自然・景観、伝統・文化等の魅力を生かした交流人口及び関係人口の拡大並びに農林水産業等の地場産業との連携による地域活性化に向けた取組を積極的に推進し、離島ならではの体験・滞在型観光を促進する。

出典：「第6次沖縄県観光振興基本計画「世界から選ばれる持続可能な観光地」
-世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-」（令和4年7月策定）

(2) 渡嘉敷村第5次総合計画

渡嘉敷村第5次総合計画は、本村が総合的かつ計画的な行政運営を行っていくための基本的な計画であり、村の最上位計画として位置づけられています。

むらの将来像

だれもが、生きがいと幸せを実感し、こころ穏やかにすごせる碧島 渡嘉敷村

本村は、国立公園に指定されるほどの豊かな自然環境と、地域独自の伝統や文化を育み、受け継いできました。

碧い海と緑豊かな森の自然あふれる環境のもとで、快適な生活を送ることが出来、ふれあいの中で子どもたちが元気に育ち、人と人との結びつきのもと、みんなの笑顔が広がるむらづくりを行います。

また、住むひと、移住してきたひと、観光でいらしたひと、本村に関わる全てのひとが生きがいややりがいを感じ、豊かで様々な地域資源を守り活かして、新しい価値を創り出し、村民の誰もが心穏やかに暮らせる碧島を築いていきます。

むらづくりの5つの基本目標

基本目標1：みんなでつくる、希望と活力にあふれる碧島

基本目標2：心豊かに、安心・安全に暮らせる碧島

基本目標3：多様な能力を発揮し、未来を拓く碧島

基本目標4：渡嘉敷らしい自然と景観、環境を大切にする碧島

基本目標5：協働の碧島

観光産業の振興

平成 26 年の国立公園指定、平成 28 年の国立公園を世界水準のナショナルパークとしてブランド化することを目的とした「国立公園満喫プロジェクト」に選定されたことにより、国内外の観光客が増加していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、本村を訪れる観光客も激減し、with・after コロナの渡嘉敷村観光のあり方について再検討する必要があります。第 5 次総合計画においては、以下の 6 つの施策を推進します。

【施策の体系】

- (1) 観光・交流資源の整備・充実・活用・維持管理
- (2) 第 1 次産業と連携した体験型観光の充実
- (3) 統一したイメージによる PR 活動の推進
- (4) 広域観光体制の充実
- (5) 地域間交流等多様な交流の促進
- (6) 長期滞在や高付加価値化等、多様化したニーズへ答えるメニューの充実

出典：「渡嘉敷村第 5 次総合計画 基本構想・基本計画（令和 5 年度～14 年度）」（令和 5 年 3 月策定）

(3) 第2期渡嘉敷村まち・ひと・しごと創生総合戦略

第2期渡嘉敷村まち・ひと・しごと創生総合戦略では、今後の本村における人口減少の克服と地方創生を確実に実現するための施策の指針などを定めています。観光振興に関連する部分においては、基本目標1、基本目標2、基本目標4の中で以下のように設定しています。

基本目標1

「碧島の風景と自然環境に調和したしごとをつくり、雇用を創出する」

渡嘉敷島周辺の海域は、ラムサール条約に指定されています。また、渡嘉敷島の海岸線の大部分と、前島及び周辺無人島は慶良間諸島国立公園に指定され、世界的にも貴重な自然とその保護が図られています。そのような豊かな自然環境を活用し、碧島の重要な産業である観光産業の持続的な発展を図るために、観光地域づくりを担う組織の育成・強化を図ります。

自給的農家が主体の本村の農業については、環境に配慮した農業振興を図りつつ、地域特性に応じた付加価値の高い特産品の生産を推進し、渡嘉敷ブランドの構築を行い、観光産業との連携により観光消費が地域の中で循環する仕組みづくりに取り組みます。

水産業については、加工品等特産品の開発と流通ルートの開拓を行い、水産物のブランド化を行います。

新型コロナウイルスによる働き方の変化に対応したワーケーションの環境を提供するなど、新たなニーズに対応したしごとと生活の場を創出します。

【数値目標】

	基準値	目標値
特産品の開発	0	2品（5年間で）
with コロナを見据えた新たな渡嘉敷村の観光振興の方向性の検討	—	方針決定

基本目標 2

「住んでみてチャレンジできる碧島づくり」

渡嘉敷村では、観光産業を中心に若年層の移住が見られます。地域社会を維持し定住人口の増加を図るためにも、積極的に若者の定住を促進します。そのためには都市部で行われる移住フェア等への参加など積極的な情報発信を行い、田舎暮らしのニーズの取り込みを図ります。

夏場の観光産業だけではない通年型の安定した雇用の創出、新たな起業支援を行い、渡嘉敷村で仕事にチャレンジできる環境を創出します。

創業・起業に係る手続き、創業時に使える公的融資制度など創業・起業時の相談、セミナー情報の提供等を行うことによって、創業・起業を志す村民を支援します。

地域おこし協力隊を活用し、特産品商品開発、観光促進、ICT や未来技術を活用した情報発信等の地域おこしを実施することで、関係人口・交流人口の増加と地域活性化を推進します。

ふるさと納税制度に積極的に取り組むことで、村外にお住まいの方との関係を深め、村づくりを応援する関係人口の増加を図ります。また、産・官・学・金の連携による取り組みについて、企業版ふるさと納税を活用し、村づくりを応援する関係人口の増加を図ります。

【数値目標】

	基準値	目標値
社会移動	-11 (2019 年)	±0 (均衡)
住民や関係人口を巻き込んだ 村づくりを考える場の創出 (仮称 渡嘉敷村戦略会議)	—	定期開催
ふるさと納税・企業版ふるさと 納税の取り組みによる関係人口の 増加	ふるさと納税 59 件 (2019 年) 企業版ふるさと納税 0 件	ふるさと納税 60 件 企業版ふるさと納税 5 件

基本目標 4

「暮らしの安心を守り、やさしい碧島の仕組みをつくる」

渡嘉敷村にしかない恵まれた自然環境を守り育てることを戦略の要とし、環境重視の特色ある村づくりを行い、自然との共生による碧島のブランド化の推進とプロモーションを行います。

また、慶良間諸島として地域が連携し、一体となった観光地づくりを行い、戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーションを行い、地域の魅力を高めることで観光を振興します。

今後、高齢化が緩やかに進む本村において、加齢による健康面の不安や、独居や夫婦2人だけの世帯では日常生活が困難になり、都市に居住する子ども達との生活や高度な医療サービスを受けるために村を離れることもあると考えられます。

医療レベルなど簡単に解消できない課題もありますが、村で生活を送る上で不安・不便と感じる要素を少しでも取り除くとともに、健康寿命を延伸していく取り組みを実施し、1年でも長く渡嘉敷村で元気に生活できる環境や体制づくりが必要です。

Society5.0 時代を生きる子供たちに、国のGIGA スクール構想の整備によるデジタル化を実現することで、地域間の教育の格差を是正し、情報通信技術の活用を積極的に行います。

医療環境が脆弱な本村では、高度な医療機関の立地は難しい状況です。そこで、県と連携を図り未来技術を活用したオンライン診療や遠隔医療の実施に向けた取り組みを行います。

村内外への情報発信を強化し、住民へのサービス向上と村外への渡嘉敷村の魅力の発信を行います。

【数値目標】

	基準値	目標値
地域活動への参加	76.6%	90.0%
未来技術を活用した遠隔医療環境の実現	—	実施

出典：「第2期渡嘉敷村人口ビジョン・総合戦略」（令和3年3月策定）

(4) 慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム 2025

慶良間諸島国立公園は、平成26年3月5日に全国で31番目の国立公園として指定されました。ステップアッププログラムは、世界水準の「ナショナルパーク」として慶良間諸島国立公園のブランド化を図るため、慶良間諸島に適したコンセプトや目標を掲げ、具体的な取組みや役割分担を“ロードマップ”として定めたものです。

コンセプト

「ちよ美ら海うみ慶良間けらま —リトリート・海と島がつくるケラマブルーの世界—」

慶良間諸島においては、一度に受入れられる利用者数に限りがあることから、大きな敷地に多様な付帯施設を擁し、多くの観光客を受け入れる従来型の「リゾート」の対極として、小規模ながら利用者一人ひとりの満足度を向上させることを目的としている。

本地域では、日常生活からリトリートし、ケラマブルーの海や島がおりなす美しい景観の中で、ゆっくりとした時間を過ごすこと、暖かみのある集落で人と人との交流を深めること、非日常的な空間で自然体験をすることなどを通して、利用者の一人ひとりが満足し、満喫し、活力を持ってそれぞれの生活に戻ることができるよう、そしてまた、疲れた時には戻って来ることができる第二のわが家となるよう、各種の取組を推進していく。

※リトリート (Retreat) とは、日常生活から離れ、自分だけの時間や人間関係に浸ることで、自分を見つめ直すこと。また、少しだけ日常を離れて自分へのご褒美にゆっくりと過ごすこと。隠れ家。

目標

本プロジェクトにおいては、次の3項目を目標としながら、新型コロナウイルス感染症による影響を受ける前の水準まで来訪者数が回復することを目指し、これらの目標実現に向けた総合的な取組を展開することとする。

① 宿泊率の向上

2019年時点の宿泊率から5%以上の向上を目指す。

② 一人あたりの消費額の増加

特に「飲食費」と「買い物費」については、ニーズが存在するものの満足度が低い傾向が見られることから、2021年に新たにオープンする青のゆる館を中心とした飲食・物販商品の拡充、慶良間諸島の地場産品を活用した地域らしいお土産等の開発と販売の推進、プロモーションによる既存商品の認知向上など、各施策を実施することによって消費機会を創出し、平均消費額を増加させることを目指す。

③ 満足度の向上

2019年時点でのお土産の満足度評価平均である5.19（外国人）、4.95（日本人）を2019年時点の8公園平均値である5.51（外国人）、5.10（日本人）以上にすることを目指し、他項目の満足度についても現状以上を維持する。

出典：「慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム2025」（令和3年3月策定）

2-2

渡嘉敷村観光振興計画の進捗評価

平成 29 年度に策定された「渡嘉敷村観光振興計画 2018-2022」では、5つの基本方針に沿って48の施策の推進と、取組みの効果を検証するための目標値が設定されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光振興が停滞したために未達となった目標や取組みもあるものの、そのような中でも、A（達成）～C（半分程度達成）の取組みが32（全体の66.7%）となりました。

以下に令和4年度時点における取組みの評価と、目標値の結果を整理しました。

前回計画の評価

基本方針		施策数	取組みの評価 (上段:件数/下段:割合) ※割合は端数の関係上、合計が100にならないことがある				
			A (達成)	B (ほぼ達成)	C (半分程度達成)	D (わずかに達成)	E (変化なし)
1	自然との共生を目指した環境づくり 【自然環境保全・活用】	11	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	2 18.2%	5 45.5%
2	快適に観光でき、滞在できる受入体制づくり 【観光客受入体制】	21	4 19.0%	5 23.8%	6 28.6%	1 4.8%	5 23.8%
3	渡嘉敷村全体を活用した四季折々の観光メニューづくり 【観光コンテンツ】	3	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%
4	渡嘉敷村の特性を活かしたブランドづくり 【地域ブランディング】	5	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
5	渡嘉敷村の魅力を効果的に伝え、人を呼び込むプロモーション実施 【誘客プロモーション】	8	2 25.0%	3 37.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%
全体		48	8 16.7%	13 27.1%	11 22.9%	6 12.5%	10 20.8%
A～Cの合計			66.7%				

基本施策		具体的な取り組み内容	計画の進捗状況
1・1	環境保全の推進	① 環境状況調査の継続実施と実施検討	D (わずかに達成)
		② 環境基準値の共有	E (変化なし)
		③ 環境負荷削減につながる取り組みの実施検討	E (変化なし)
		④ 環境協力税の妥当性の検討	E (変化なし)
1・2	エコツーリズムの推進	① 良質なエコツアープログラムの開発・実施	E (変化なし)
		② 渡嘉敷村の魅力活用に向けた取り組み	A (達成)
		③ 渡嘉敷村を考える会の開催実施	E (変化なし)
1・3	環境美化の推進	① 美化運動の実施	B (ほぼ達成)
		② 廃棄物の削減に向けた取り組み	B (ほぼ達成)
1・4	外来種への対策	① 生態系維持に向けた取り組み	D (わずかに達成)
		② 害獣の駆除・捕獲に向けた取り組み	C (半分程度達成)
2・1	観光客受入体制の整備	① 観光協会の設立	A (達成)
		② 質の高い観光案内の充実	C (半分程度達成)
		③ 外国人観光客への案内対応サポート支援	C (半分程度達成)
		④ 外国語対応への取り組み	C (半分程度達成)
		⑤ 飲食店連携に向けた取り組み	C (半分程度達成)
		⑥ 働く人材不足の解消に向けた取り組み	D (わずかに達成)
		⑦ 各種サービス整備状況の事前周知活動	B (ほぼ達成)
2・2	利用環境向上に向けた基盤整備の充実	① 船内WIFI環境の整備検討	A (達成)
		② WIFI環境の整備	B (ほぼ達成)
		③ 案内標識の整備検討	A (達成)
		④ 交通安全看板等の整備検討	E (変化なし)
		⑤ 船舶荷物運搬に関する利便性向上に向けた検討	A (達成)
		⑥ 既存の観光・交流施設の維持管理の推進	B (ほぼ達成)
2・3	各種予約システムの構築	① 船舶の予約サイトの改善	B (ほぼ達成)
		② 宿泊施設や飲食店の予約サイトの構築	C (半分程度達成)
2・4	交通網の充実	① 適正な船舶の運用体制づくりの推進	E (変化なし)
		② 慶良間諸島の周遊航路の検討	E (変化なし)
		③ 島内周遊バスの運用の検討	C (半分程度達成)
2・5	避難対策の整備	① 避難場所の案内板の設置	B (ほぼ達成)
		② 避難時の対応マニュアルの作成・配布	E (変化なし)
2・6	非常時における対応	① 非常時の対応マニュアルの作成と周知	E (変化なし)
3・1	観光メニューの創出	① 渡嘉敷村の観光資源を活用した体験メニュー・プログラムの創出	D (わずかに達成)
		② 観光イベントの継続開催、及び新規の企画検討	C (半分程度達成)
		③ 観光ルートづくりの推進	C (半分程度達成)
4・1	渡嘉敷村としてのブランディング	① お土産品の開発	B (ほぼ達成)
		② 観光マナーの周知徹底に向けた取り組み	B (ほぼ達成)
		③ 安全安心な観光に向けた取り組み	A (達成)
		④ 地域ブランディングの構築に向けた取り組み	C (半分程度達成)
4・2	慶良間諸島全体としてのブランディング	① 慶良間諸島全体での観光振興への取り組み	B (ほぼ達成)
5・1	情報発信の充実	① 村ホームページの改訂	D (わずかに達成)
		② SNSを活用した定期的な情報発信	C (半分程度達成)
		③ デジタルサイネージの設置	A (達成)
5・2	誘客プロモーション活動の推進	① 修学旅行の誘客	B (ほぼ達成)
		② 誘客イベントへの参加	B (ほぼ達成)
		③ パンフレットやポスターの作成・配布	A (達成)
		④ デジタルコンテンツの制作検討	B (ほぼ達成)
5・3	交流活動の推進	① 他自治体との交流機会創出の検討	D (わずかに達成)

基本方針ごとの進捗（主なもの）

基本方針 1

11 施策のうち、27.3%が「A（達成）+B（ほぼ達成）」と評価されています。
「C（半分程度達成）」まで加えると、36.4%（4 施策）となっています。
環境保全の推進、渡嘉敷村を考える会の開催実施 5 つの施策で「E（変化なし）」
となっており、次期計画において取組みを検討する必要があります。

基本方針 2

21 施策のうち、「A（達成）+B（ほぼ達成）」から「C（半分程度達成）」までで、
71.4%（15 施策）となっています。観光協会の設立、船内 Wi-Fi 環境・案内標識
の整備検討は達成しています。
適正な受入体制強化に向けた観光目的来島者数の把握ができていないため、現在の
運用方を整理した上で、今後の測定方法を確立していくことが必要です。

基本方針 3

3 施策のうち、66.7%（2 施策）が「C（半分程度達成）」となりました。
渡嘉敷村の観光資源を活用した体験メニュー・プログラムの創出は、「D（わずかに
達成）」となりましたが、現在も新たなプログラムの検討・開発は日々進んでい
ます。観光協会が設立されたため、今後、村事業や県事業と連携した取組みの活
性化が期待できます。

基本方針 4

5 施策すべてが「A（達成）+B（ほぼ達成）+C（半分程度達成）」となりました。
一方で、渡嘉敷村としてのコンセプトやどのようなテーマで推進していくのかが
明確化されていない実情があるため、次期計画の策定においては、村内外両面の
視点からブランディングを検討する必要があります。

基本方針 5

8 施策のうち、62.5%（5 施策）が「A（達成）+B（ほぼ達成）」となり、「C（半
分程度達成）」まで加えると、75.0%（6 施策）となりました。
他自治体との交流機会創出の検討においては、進捗がわずかとなり、今後一層の
取組みの強化が必要です。
村ホームページの改定については、SNS 等の取組みの強化も視野に入れながら、各
団体の情報発信内容の重複を避けつつ、一貫したブランディングに繋げられるよ
う、役割分担をはじめ、調整・検討が必要です。

取組みの効果を検証するための目標値と現状値

(1) 冬季の観光メニューの創出については、目標に対して未達となっていますが、4メニューから15メニューまで増加しました。(2) 特産品の開発については、目標「新規2商品開発」に対し、27商品と大幅に上回る達成状況となっています。(4) 渡嘉敷島を訪れる入域者数等については、新型コロナウイルス感染症からの回復途上ということもあり、すべての項目において未達となっています。

(3) 渡嘉敷村内での観光消費、(4) 宿泊者数の数値については、計画期間中のシステム変更により測定が困難となったため、あらためて測定方法を見直します。

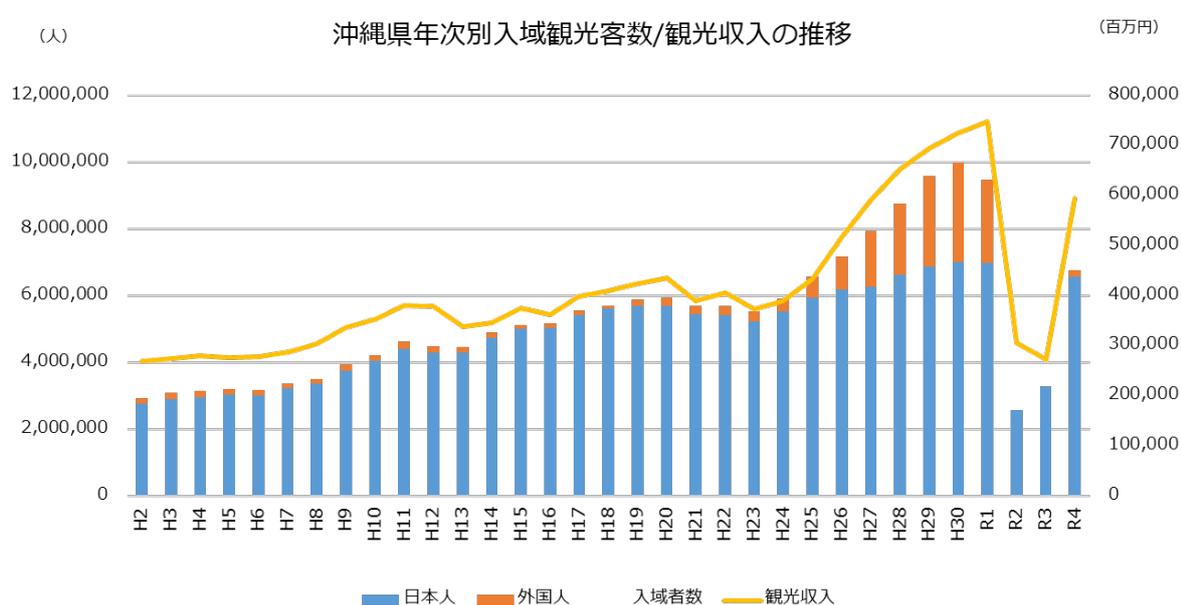
指標	H29年度実績	目標値	R4年度実績	備考
(1)観光メニューの創出 渡嘉敷村を訪れる観光客に楽しんでもらえる観光メニューの増加を目指します。				
冬季の観光メニュー数	4メニュー	20メニュー	15メニュー	令和5年以降も、引き続きメニュー開発が行われている。夏季だけではなく、冬季を含め通年を通した観光メニューも含まれる。
(2)特産品の開発 渡嘉敷村の地域性を活かした特産品の増加及び、それに伴う原材料の増産を目指します。				
特産品数	—	新規2商品開発	27商品	令和5年以降も、引き続き特産品開発が行われている。
(3)渡嘉敷村内での観光消費 渡嘉敷島内の観光消費額増加に向け、通年の延べ宿泊日数の増加を目指します。				
通年延べ宿泊日数	—	10%増	—	測定方法の見直しが必要。
(4)渡嘉敷島を訪れる入域者数等 渡嘉敷村の観光施策を進めることで、全体、及び冬期、外国人の入域者数増加のほか、宿泊者数の増加を目指します。				
全体的入域者数	132,378人	159,000人 (約27,500人増加)	90,304人	
冬期(11月～3月)の入域者数	21,493人	40,400人 (約18,900人増加)	24,225人	外国人含む。
外国人の入域者数	24,144人	26,500人 (約2,400人増加)	9,099人	
宿泊者数	—	10%増	—	測定方法の見直しが必要。

※宿泊者数の数値については当初想定していたカウント方法では測定が困難なため、あらためて測定方法の確立を目指す

2-3 渡嘉敷村の観光状況

(1) 沖縄県入域者数の推移

沖縄県の入域観光客数は、平成30年度まで右肩上がりとなっていました。令和2年度・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きかったものの、令和4年度は回復傾向となっています。(平成25～26年度の水準)



※入域観光客数は年度数値、観光収入は暦年数値となっている

出典：「令和4年度の観光収入【試算値】」(沖縄県、令和5年8月発表)

(2) 渡嘉敷村入域者数の推移

●入域者数の推移

渡嘉敷村の入域者数は平成24年度から平成29年度にかけて右肩上がりとなり、その後新型コロナウイルス感染症拡大前まで年間約13万人の入域者数となっていました。沖縄県の推移と同様に、令和4年度には回復傾向となっています。



※平成24年度以降は、「みつしま」による入域者数を含む

※平成25年度以降は、公営船以外による入域者数を含む

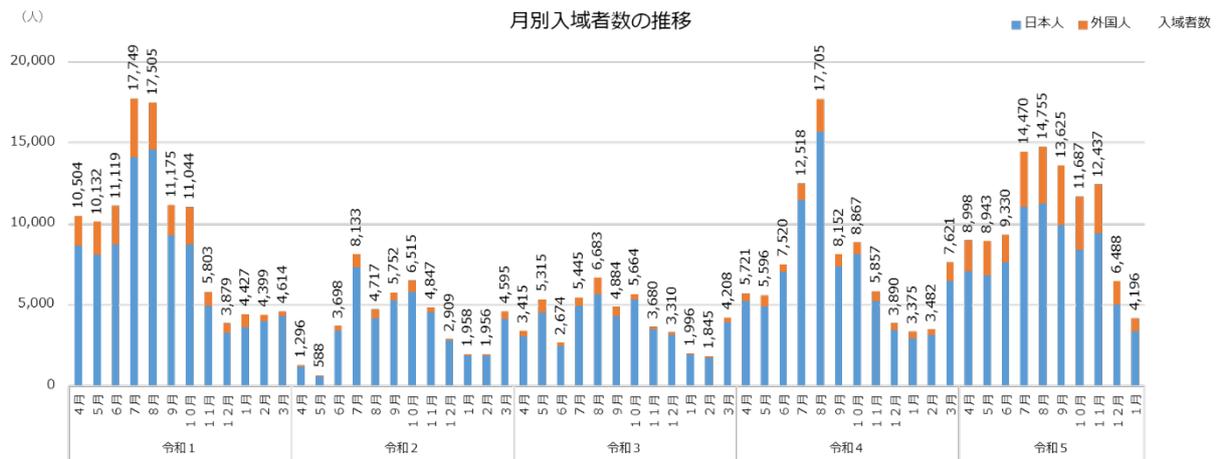
※平成26年度以降、国籍別に入域者数の把握が可能となったため、日本人・外国人入域者数を分けて算出している

出典：渡嘉敷村 入域者調べ（環境協力税データベース）

●月別入域者数の推移

令和元年4月から令和5年1月までの月別入域者数の推移を見ると、令和4年の8月は新型コロナウイルス感染症拡大前と同等となっていますが、第7波の影響もあり、9月以降は低迷しました。

令和5年の4月～10月の月別入域者数を令和元年の同月と比較すると、4月～8月は8割程度の推移となりましたが、9月・10月は同年月比を上回るほど回復しています。

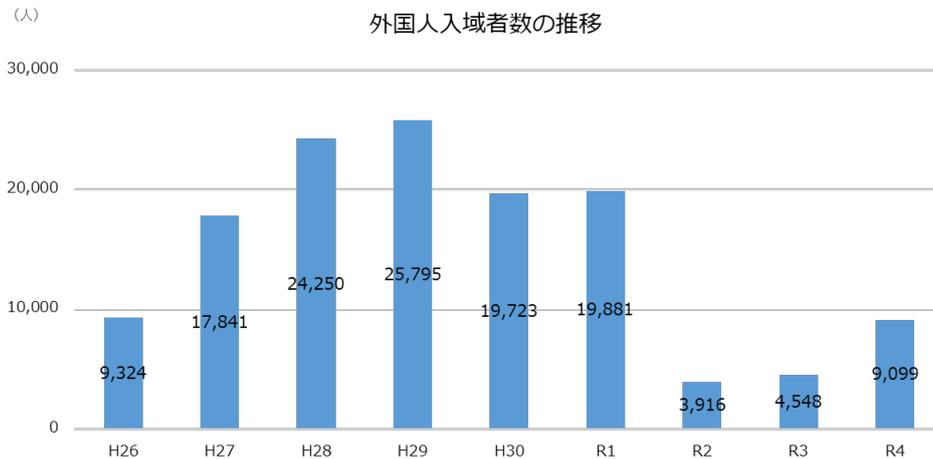


※公営船以外による入域者数を含む

出典：渡嘉敷村 入域者調べ（環境協力税データベース）

●外国人入域者数の推移

平成26年度から令和4年度の外国人入域者数の推移を見ると、平成26年度から平成29年度にかけて右肩上がりとなっています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度、令和3年度は低迷していましたが、令和4年度は年間9,099人まで回復しています。

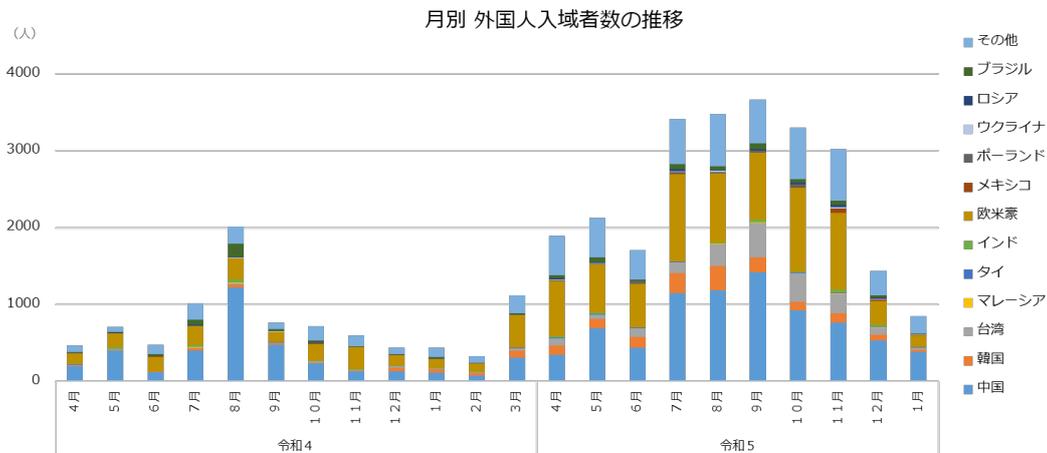


※公営船以外による入域者数を含む

出典：渡嘉敷村 入域者調べ（環境協力税データベース）

●月別外国人入域者数（国籍別）

令和4年度以降の外国人入域者数の推移を見ると、令和5年度に入ってから急速に回復しつつあり、国籍別では中国からの来訪者数が最も多くなっています。また、欧米豪からの来訪割合も増加傾向にあります。



※欧米豪…アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、スイス、イタリア、スペイン、オランダ、スウェーデン、オーストラリア合算

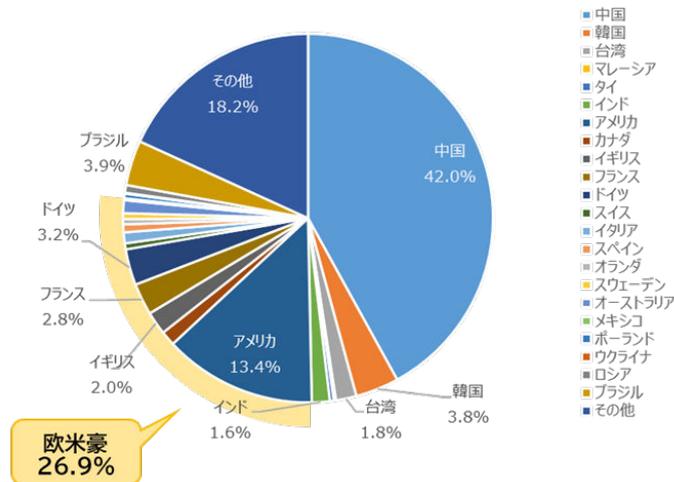
※公営船以外による入域者数を含む

出典：渡嘉敷村 入域者調べ（環境協力税データベース）

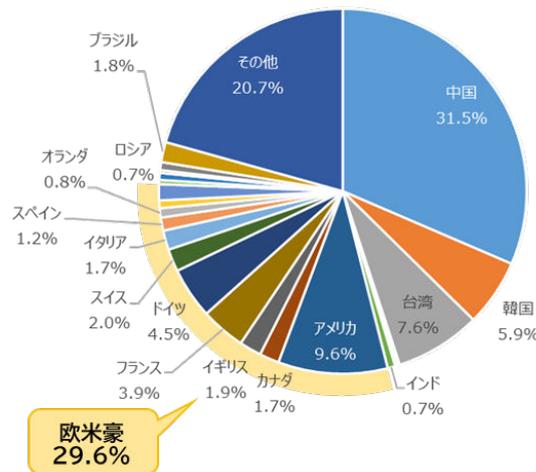
●外国人入域者数（国籍別）

令和4年度と令和5年度（4月～1月）の外国人入域者数の国籍別の内訳を比較すると、中国からの来訪が減少、欧米豪、韓国、台湾の割合が増加傾向となっています。

令和4年度の外国人入域者の割合



令和5年度（4月～1月）の外国人入域者の割合



	中国	韓国	台湾	マレーシア	タイ	インド	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	ドイツ	スイス
R4	42.0%	3.8%	1.8%	0.2%	0.3%	1.6%	13.4%	1.3%	2.0%	2.8%	3.2%	0.5%
R5	31.5%	5.9%	7.6%	0.2%	0.2%	0.7%	9.6%	1.7%	1.9%	3.9%	4.5%	2.0%
	イタリア	スペイン	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	メキシコ	ポーランド	ウクライナ	ロシア	ブラジル	その他	
R4	0.7%	0.7%	0.5%	0.5%	1.1%	0.2%	0.4%	0.1%	0.7%	3.9%	18.2%	
R5	1.2%	1.2%	0.8%	0.7%	1.4%	0.4%	0.6%	0.2%	0.7%	1.8%	20.7%	

※欧米豪…アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、スイス、イタリア、スペイン、オランダ、スウェーデン、オーストラリア合算

※割合は端数の関係上、合算数値と合わないことがある。

※公営船以外による入域者数を含む

出典：渡嘉敷村 入域者調べ（環境協力税データベース）

(3) 観光資源

渡嘉敷村には、山、川、海（ビーチ）、渡嘉敷村周辺の12の島々を加えた自然観光資源や、自然資源を活用した体験・アクティビティが豊富にあります。また、琉球文化やウタキをはじめとする琉球神道の文化財や第二次世界大戦に関わる歴史・文化関連資源など、多岐に渡る観光資源を有しています。

自然関連資源（代表的なもの）



山

北山（にしやま）、アラリ山、大見座山 等



川

渡嘉敷川、大川 等



ビーチ

渡嘉志久ビーチ、阿波連ビーチ 等



島

ハナリ島、ウン島、儀志布島、城島、前島、黒島、拝島、中島、端島、ナガンヌ島、クエフ島、神山島



植物

（代表的なもの）オオハマボウ・ユウナ、オキナワシャリンバイ、オキナワハイネズ、ヤマモモ、カンヒザクラ（寒緋桜）、クロツグ、クロヨナ、ゲットウ、ケラマツツジ、ツワブキ、テッポウユリ、テリハボク、



陸の生物

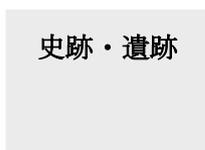
（代表的なもの）メジロ、シリケンイモリ・イボイモリ、ベニアジサシ、オキナワキノボリトカゲ、イソヒヨドリ、オオゴマダラ、モンシロチョウ、リュウキュウアカショウビン、トノサマバッタ・ショウリョウバッタ、リュウキュウキジバト、リュウキュウヤマガメ、リュウキュウハシブトカラス、ヤギ、ケラマトカゲモドキ 等



海の生物

（代表的なもの）ノッチの貝、ナガウニの仲間、オキナワハクセンシオマネキ、ノコギリガザミ、オニヒトデ、オオイワガニ・ツノメガニ、ヒメジャコガイ、ジャノメナマコ・クリイロナマコ、ウデフリクモヒトデ 等

歴史・文化関連資源（代表的なもの）



史跡・遺跡

クミチジ山（久米頂山）、クバンダキ、阿波連のクバ山、阿波連の力石（生活館中庭）、阿波連浦貝塚、海神宮、学問の世の神様の墓、グシク（あねき御嶽）、鰹節製造工場跡、船越原遺跡（ふなこしぼるいせき）、北ウタキ、赤間山烽火台跡（ヒータティヤー）、渡嘉敷神社、白玉之塔、大谷辻歌碑・ウニギラマ伝説うふな一橋、伊江村民収容地跡記念碑 等



文化財



根元家の石垣、旧日本軍特攻艇秘匿壕、
新垣筑兵衛由来のカジノキ群、集団自決跡地、
北山（にしやま）山頂から望む慶良間海峡、赤松隊本部壕

観光施設関連資源（代表的なもの）

自然関連施設

森林公園、阿波連園地、青少年旅行村 キャンプ場、
青少年交流の家 海洋研修場、渡嘉志久海岸公園、阿波連植物公園 等

展望台



北山（にしやま）展望台（西展望台）、照山展望台、クバンダキ展望台、
赤間山展望台（東展望台）、港の見える丘展望台、
渡嘉敷林道展望台（アラン展望台）、阿波連園地展望台、
前岳林道展望台

遊歩道



村道大谷線の遊歩道、照山園地遊歩道、見花原遊歩道

ツアー・アクティビティ（一例）

ツアー

日帰り海水浴プラン、ホエールウォッチング、シュノーケルツアー、
eバイクツアー、ネイチャーガイドツアー、ナイトツアー、
体験ツアー（民具作り・料理作り等）、水中遊覧船 等

アクティビティ



ダイビング、フィッシング、バナナボート、ウェイクボード、
シーカヤック、シュノーケリング、ジェットスキー、サップ、
ハイキング、サイクリング（eバイク） 等

村内行事・イベント（一例）

1月3日	合同生年祝賀会
1月初旬・中旬	①二十歳の集い、②駅伝大会
2月初旬	とかしきマラソン
3月28日	戦没者慰霊祭
(旧暦) 2月1日	海神祭
4月中旬	海開き
(旧暦) 3月3日	阿波連浜下り
(旧暦) 3月4日	渡嘉敷浜下り
(旧暦) 3月4日	ハーリー（渡嘉敷区）
(旧暦) 5月4日	ハーリー（阿波連区）
(旧暦) 6月25日	大綱曳き
8月中旬	あはれんまつり
9月中旬	敬老会
11月初旬	音もだち
開催時期未定	トリムマラソン、とかしき祭り

特産品（一例）

特産品

まぐろジャーキー、島むんゼリー、泡盛 渡嘉敷、黒米味噌、レジンアート、夜光貝アクセサリー 等



2-4

渡嘉敷村の観光関連調査結果

本計画の策定に向けて、渡嘉敷村の住民・観光事業者・観光客を対象にしたアンケート調査を実施しました。

(1) 観光に関する村民アンケート調査結果

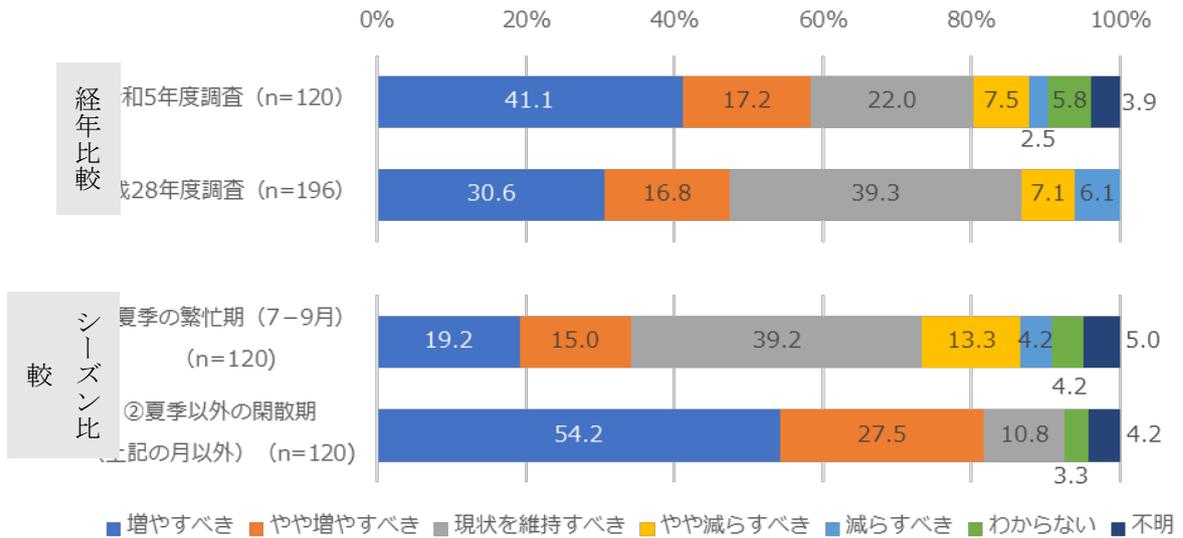
●調査実施概要

調査対象	渡嘉敷村民（村内 380 世帯）
調査期間	令和 5 年 11 月 27 日～12 月 27 日
配布方法	郵送配布
回収方法	郵送または WEB 回収
回収数	120 票

今後、渡嘉敷村は積極的に観光客を増やすべきだと思うか

今後、観光客を増やすべきだと思うかという設問については、平成 28 年度調査では「現状を維持すべき」が 39.3%を占めていました。令和 5 年度調査では、「増やすべき」が増加しており、「やや増やすべき」と合わせて、58.3%となっています。

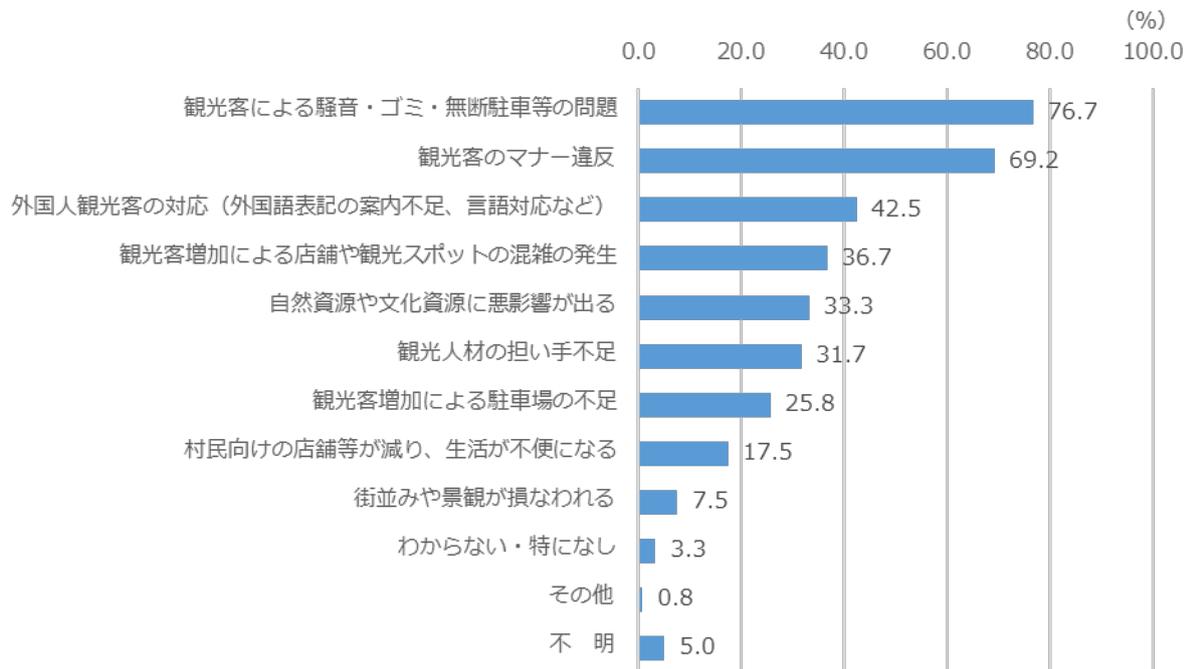
繁忙期・閑散期別に見ると、夏季の繁忙期は現状維持が約 4 割を占めていますが、夏季以外の閑散期は「増やすべき」が 54.2%、「やや増やすべき」が 27.5%と、8 割以上の回答者において観光客増加への意向を示しています。



※「わからない」について、平成 28 年度調査では選択肢なし

今後、観光振興の推進により、渡嘉敷村民として懸念すること

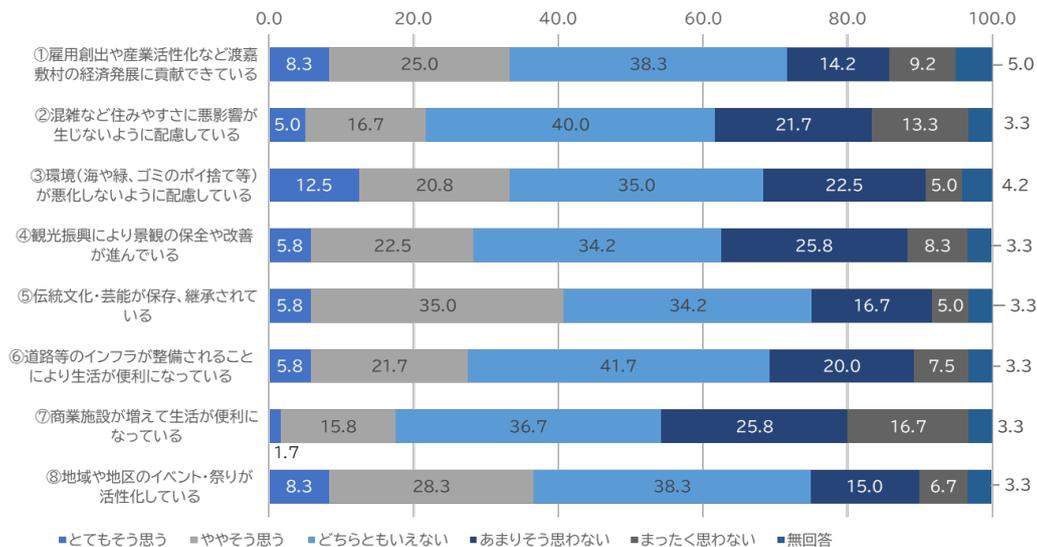
今後、観光振興の推進による懸念点として、「観光客による雑音・ゴミ・無断駐車等の問題」が76.7%と最も高く、次いで「観光客のマナー違反」が69.2%となっています。



観光振興のために、実施している取組みについての考え

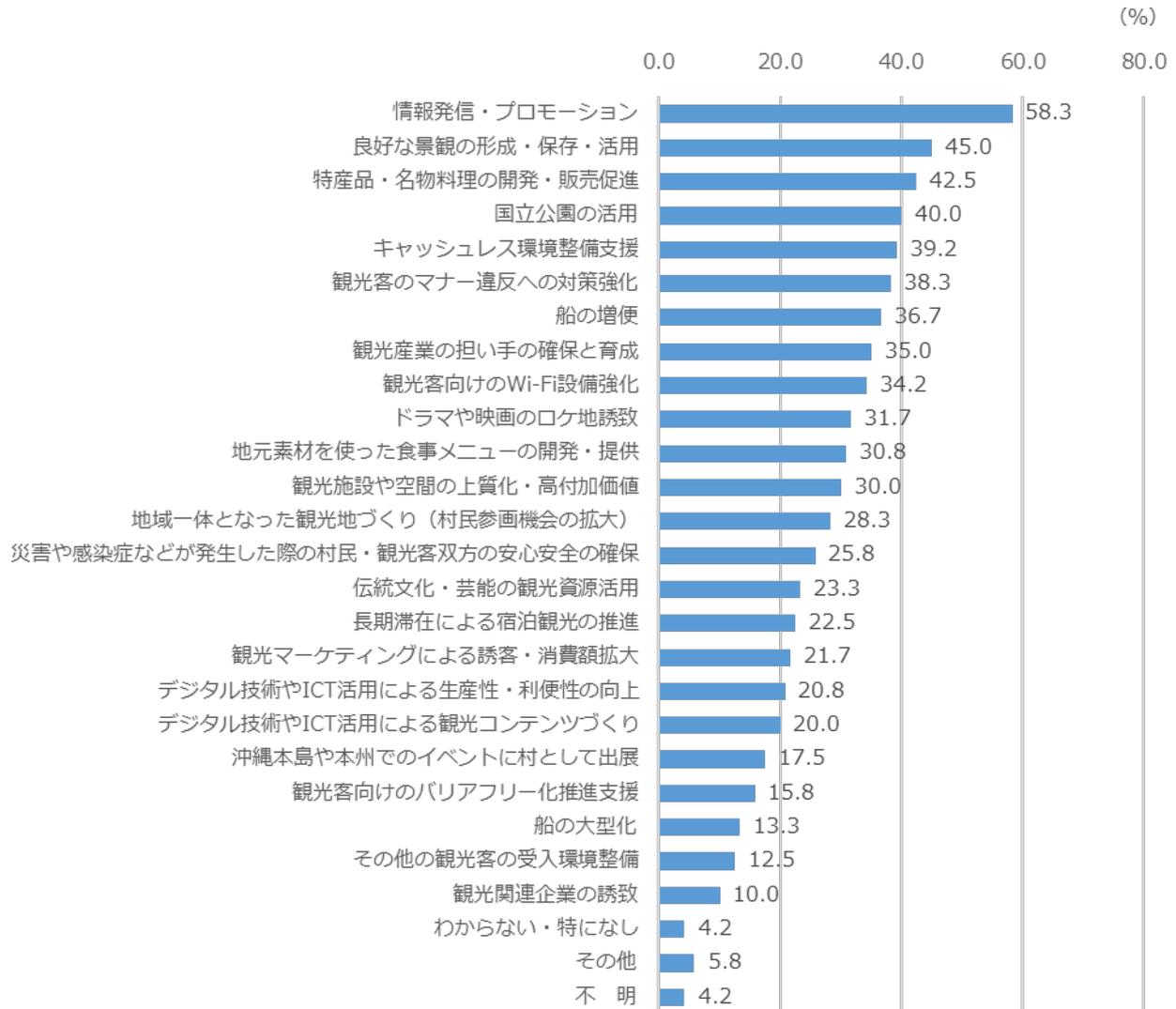
観光振興のために実施している取組みについて、村民としての実感を聞いたところ、すべての項目について「どちらともいえない」が最も高くなりました。「とてもそう思う」「ややそう思う」の合算した回答では、「⑤伝統文化・芸能が保存、継承されている」が40.8%で最も高く、次いで「⑧地域や地区のイベント・祭りが活性化している」が36.6%となっています。

「②混雑など住みやすさに悪影響が生じないように配慮している」や「⑦商業施設が増えて生活が便利になっている」については、相対的に低い結果となっています。



渡嘉敷村が観光振興を進めていく上で、必要だと思うこと

渡嘉敷村が観光振興を進めていく上で必要だと思うことでは、「情報発信・プロモーション」が58.3%と最も高く、次いで「良好な景観の形成・保存・活用」が45.0%、「特産品・名物料理の開発・販売促進」が42.5%となっています。



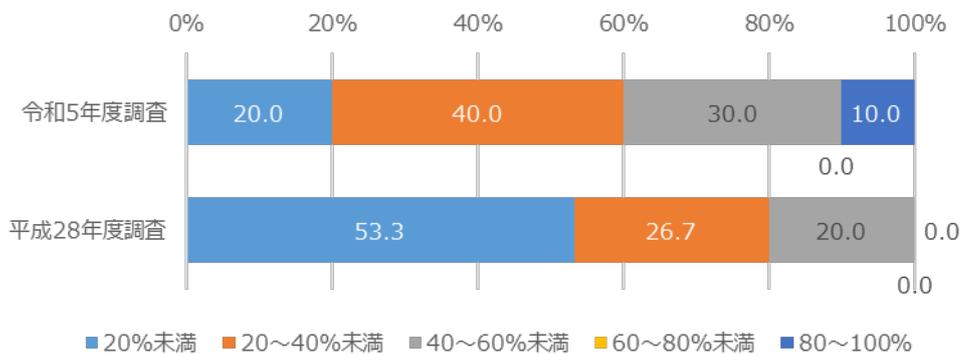
(2) 渡嘉敷村観光事業者アンケート調査結果

●調査実施概要

調査対象	渡嘉敷村内事業者（77 事業者）
調査期間	令和 5 年 12 月 8 日～12 月 25 日
配布方法	郵送配布
回収方法	郵送回収
回収数	22 票

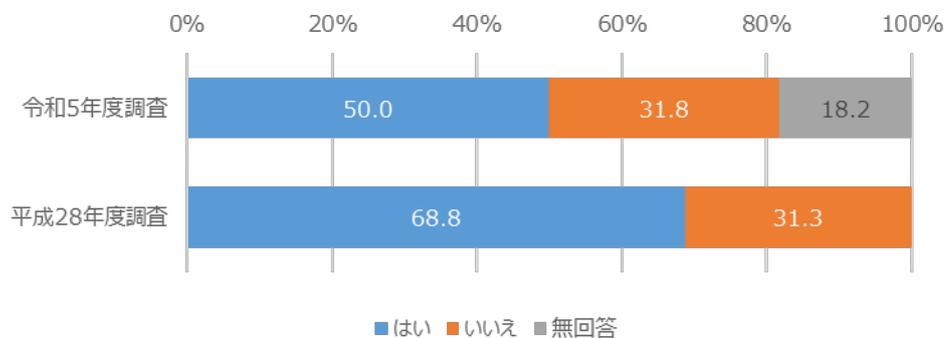
閑散期の稼働率

閑散期（4 月～6 月、10 月～3 月）の稼働率について、40%未満が 6 割を占めていますが、平成 28 年度調査からは良化している様子も見られます。



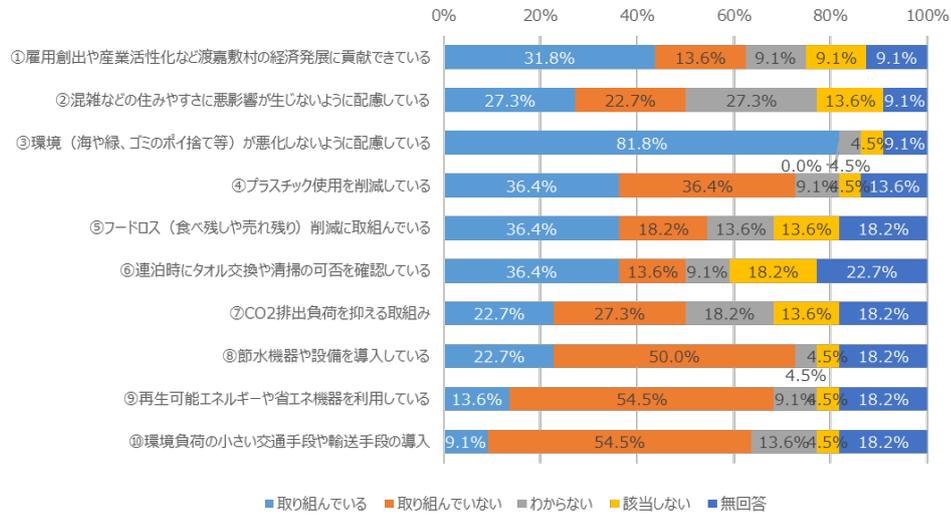
外国人観光客の受入において困ったことの有無

外国人観光客の受入において困ったことが「ある」事業者は、50.0%と平成 28 年度調査から減少しています。



持続可能な観光に向けた取組みで実施していること

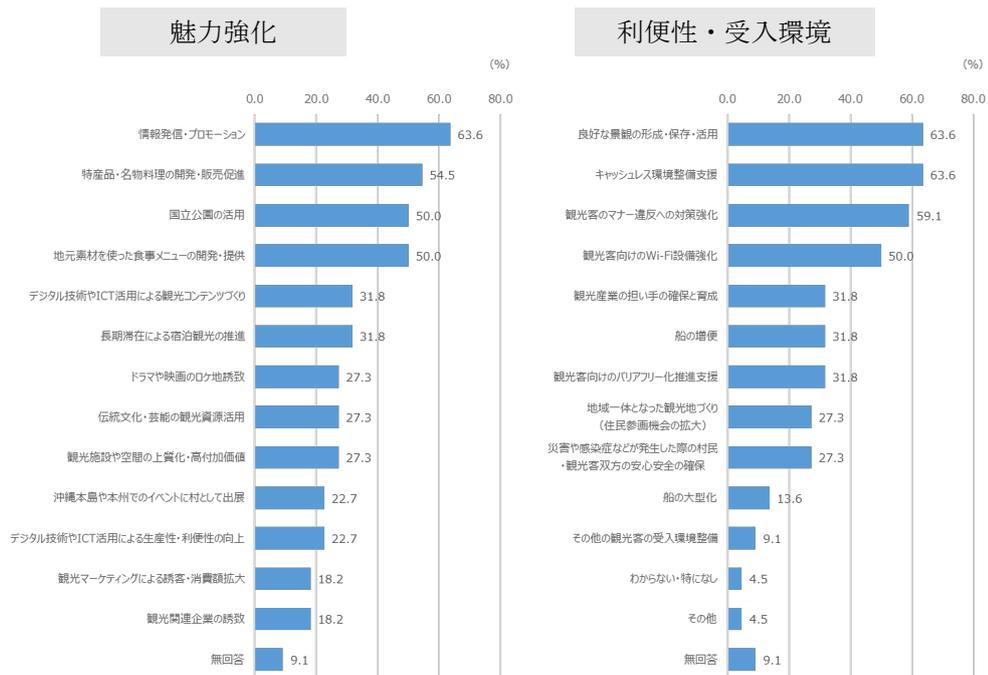
持続可能な観光に向けた取組みで実施していることは、「③環境（海や緑、ゴミのポイ捨て等）が悪化しないように配慮している」が81.8%と最も高くなっていますが、それ以外の取組みは50%未満となっています。



観光振興の推進において必要なこと

観光振興の推進において必要なことについて、魅力強化に関する項目では、「情報発信・プロモーション」が63.6%と最も高く、次いで「特産品・名物料理の開発・販売促進」が54.5%、「国立公園の活用」、「地元素材を使った食事メニューの開発・提供」が50.0%となっています。

利便性・受入環境に関する項目では、「良好な景観の形成・保存・活用」、「キャッシュレス環境整備支援」が63.6%、次いで「観光客のマナー違反への対策強化」が59.1%となっています。



(3) 渡嘉敷村観光客アンケート調査結果

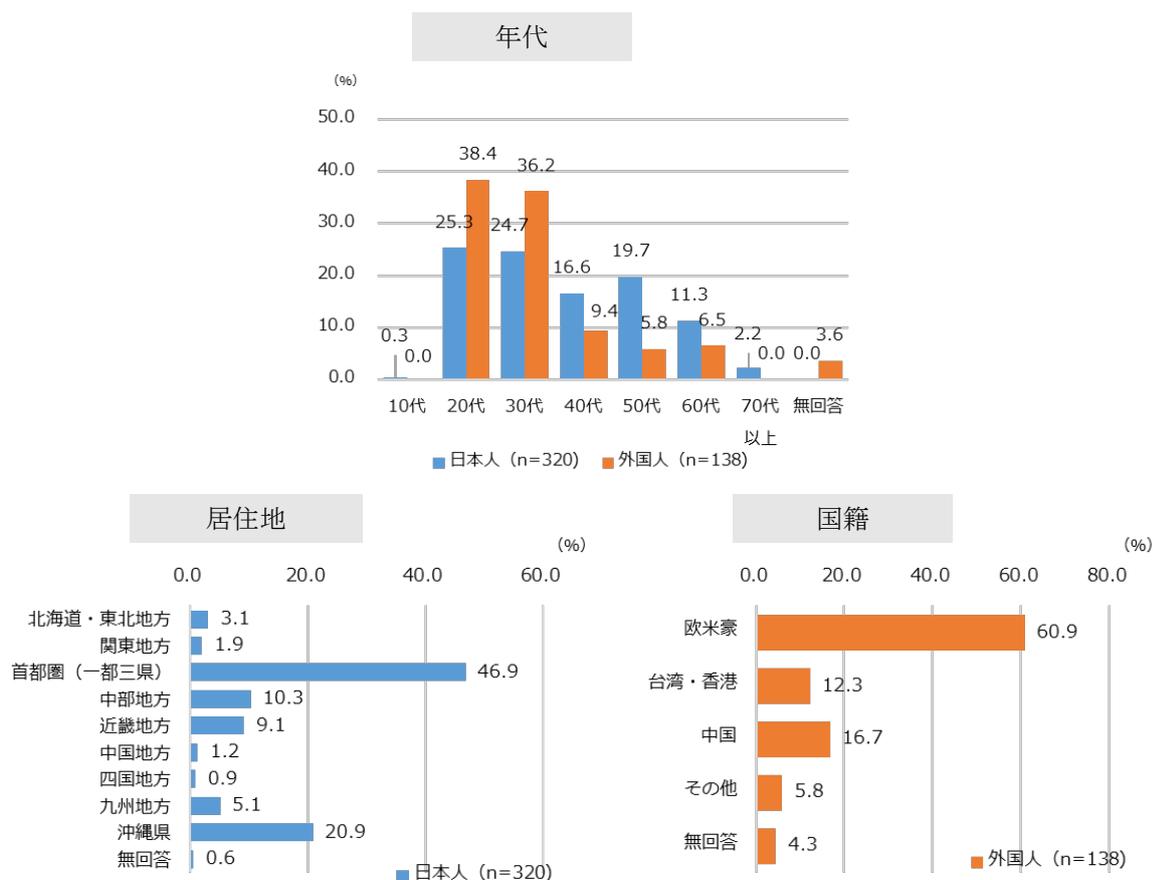
●調査実施概要

調査対象	渡嘉敷村を訪れた観光客（日本人、外国人）
調査期間	令和5年10月29日～12月3日
配布方法	アンケートチラシを配布
回収方法	二次元バーコードからWEB回答または別紙調査票への直接記入
回収数	日本人：320人 外国人：138人 合計：458人

回答者属性

日本人・外国人ともに、20代・30代の若い世代の来訪者が多くなっています。

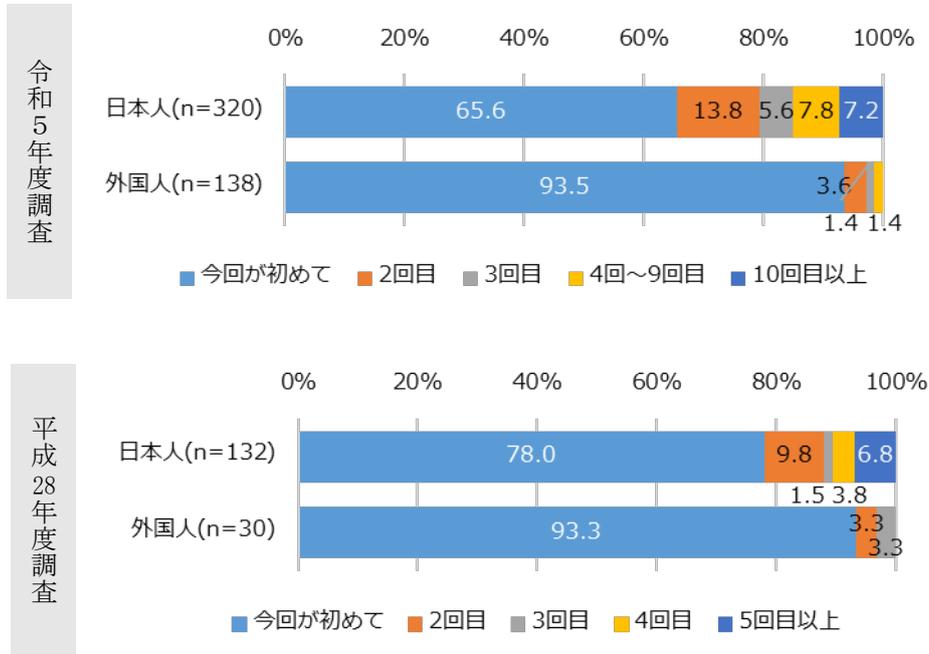
日本人においては、首都圏（一都三県）が46.9%、沖縄県が20.9%、中部地方が10.3%となっています。外国人においては、欧米豪が60.9%、中国が16.7%、台湾・香港が12.3%となっています。



※欧米豪…アメリカ、ドイツ、スペイン、イタリア、カナダ、ポルトガル、ポーランド、デンマーク、オーストラリア、フランス、スロベニア、イギリス、オランダ、チェコ、オーストリア、ベルギー合算

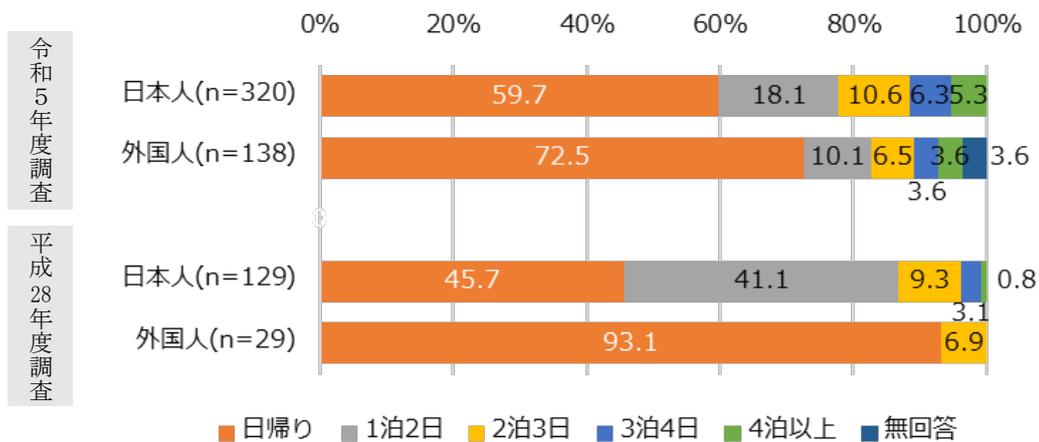
訪問回数

訪問回数は、日本人・外国人ともに「今回が初めて」が6割以上となっています。平成28年度に実施したアンケート調査結果と比較すると、特に日本人において「今回が初めて」の割合が減少しています。



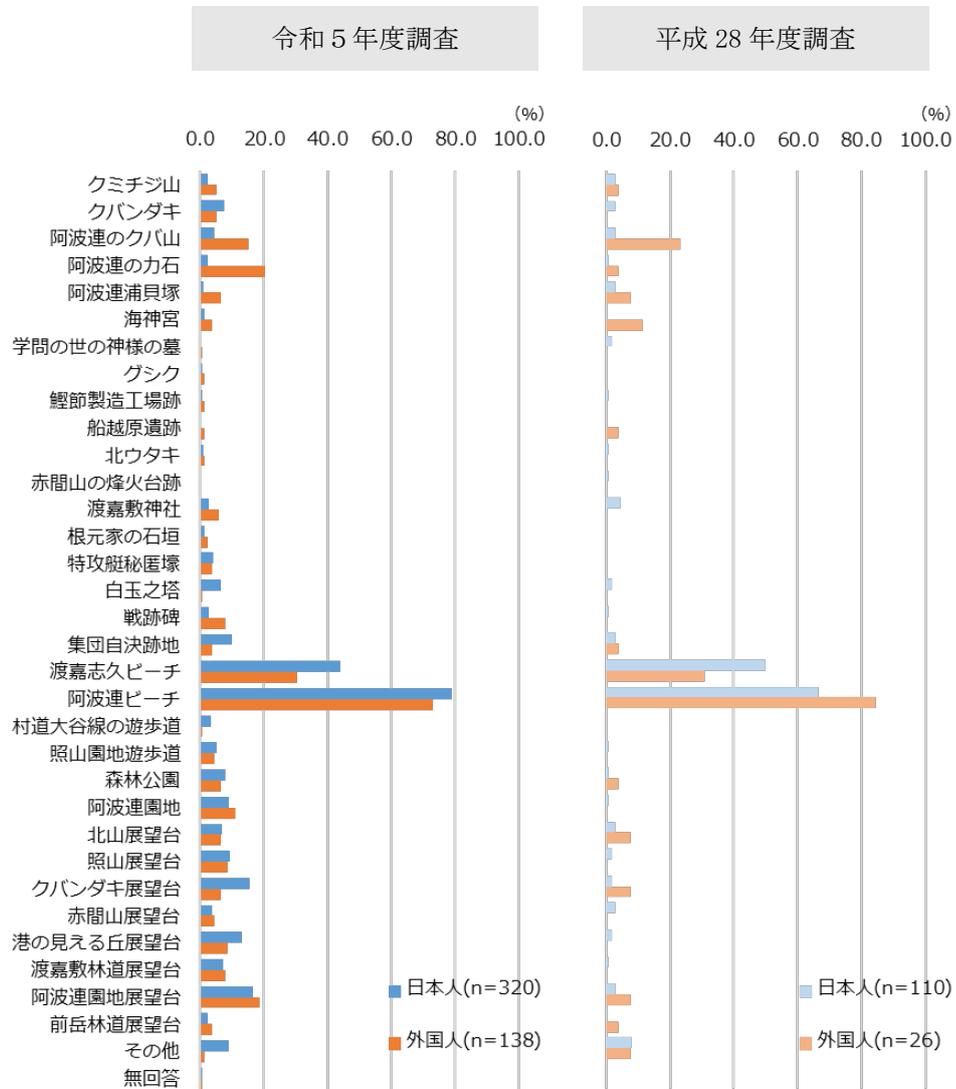
滞在日数

滞在日数は、日本人・外国人ともに「日帰り」が最も多くなっています。平成28年度に実施したアンケート調査結果と比較すると、日本人の「日帰り」の割合が増加している一方、外国人の1泊以上の割合が増加しています。



渡嘉敷村内での立ち寄り場所

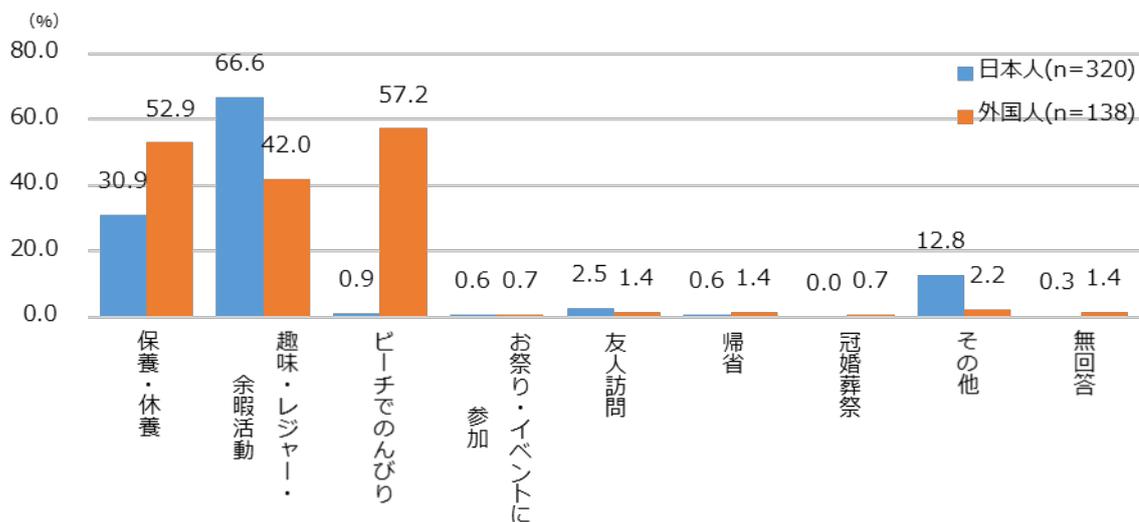
渡嘉敷村での立ち寄り場所について、平成 28 年度に実施したアンケート調査結果から大きな変化はなく、日本人・外国人ともに「阿波連ビーチ」、「渡嘉志久ビーチ」が高い割合となっています。



※平成 28 年度調査では、「渡嘉敷島の訪れたい場所（来訪前）」の設問として調査しているため、平成 28 年度の数値は参考値である

来訪目的

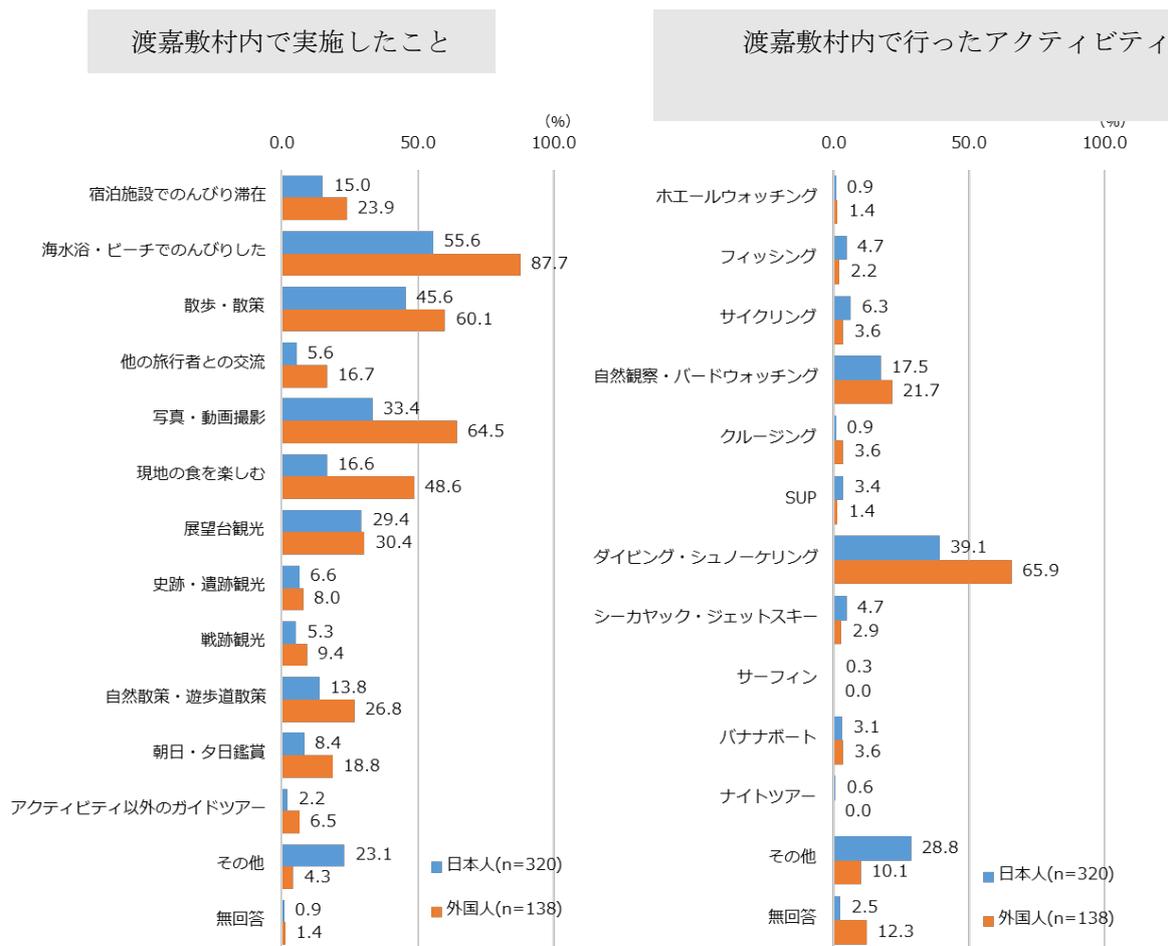
渡嘉敷村への来訪目的は、日本人では、「趣味・レジャー・余暇活動」が66.6%と最も高く、次いで「保養・休養」が30.9%となっています。外国人では、「ビーチでのんびり」が57.2%と最も高く、次いで「保養・休養」が52.9%、「趣味・レジャー・余暇活動」が42.0%となっています。



渡嘉敷村内で実施したこと／行ったアクティビティ

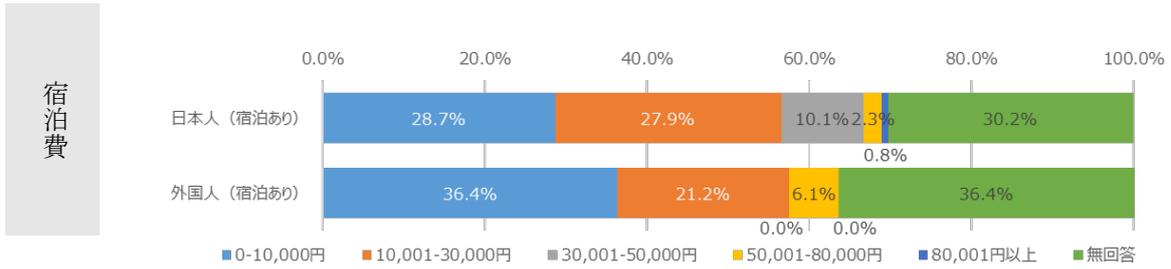
渡嘉敷村内で実施したことについて、日本人では「海水浴・ビーチでのんびりした」が55.6%と最も高く、次いで「散歩・散策」が45.6%となっています。外国人では、「海水浴・ビーチでのんびりした」が87.7%、次いで「写真・動画撮影」が64.5%、「散歩・散策」が60.1%となっており、全体的に外国人の方が実施した割合が高くなっています。

渡嘉敷村内で行ったアクティビティについて、日本人・外国人ともに「ダイビング・シュノーケリング」が最も高くなっていますが、外国人は65.9%、日本人は39.1%と大幅に差が生じています。



村内における一人当たりの消費額

【宿泊費】について、日本人・外国人ともに、「0～10,000円」の金額層が高くなっています。



【飲食費】について、日本人・外国人にかかわらず、日帰りでは「0～1,000円」が最も高く、次いで「1,001～2,000円」となっており、4割～5割程度が2,000円以下となっています。

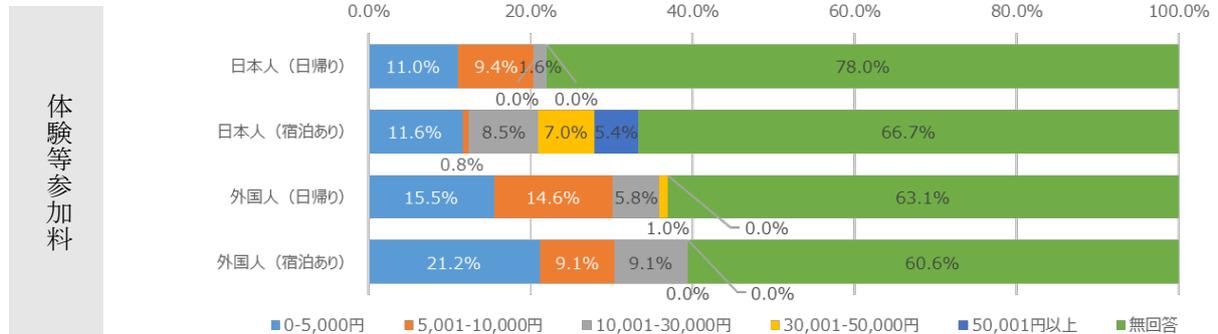
宿泊ありでは、「3,001円～5,000円」、「5,001円以上」が多く占めており、日本人では約4割、外国人では5割以上となっています。未利用と思われる「無回答」も高くなっています。



【買い物】について、日本人・外国人ともに未利用と思われる「無回答」が高くなっています。全体的に1割強～3割が2,000円以下となっています。



【体験等参加料】について、支出をしていないと思われる「無回答」の割合が日本人（日帰り）を筆頭に高くなっています。日本人では日帰りよりも宿泊ありの方が10,001円以上支払う割合が増えています。外国人では、宿泊の有無にかかわらず、10,000円未満の回答が3割程度となっています。



【施設入場料】について、日本人・外国人ともに、宿泊の有無にかかわらず支出をしていない「無回答」が高くなっています。有料の入場施設自体が少ないことが表れています。

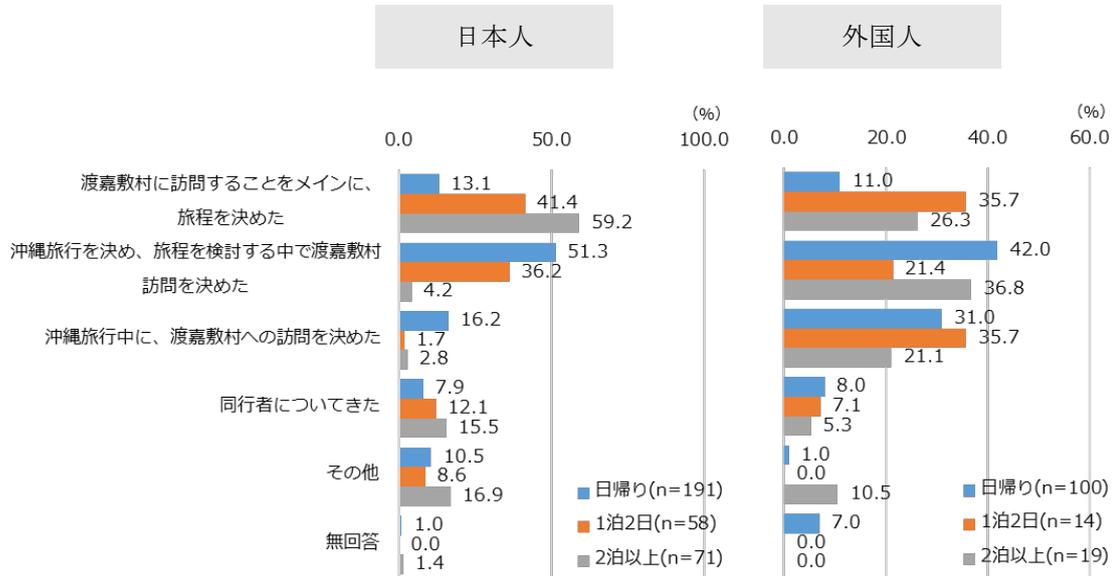


【交通費】について、日本人・外国人ともに、宿泊ありよりも日帰りの方が交通費を支出している割合が高くなっています。その支出額は、1,000円未満が最も高くなっています。



渡嘉敷村への訪問はどのように決めたか

渡嘉敷村への訪問について、日本人・外国人ともに日帰りでは「沖縄旅行を決め、旅程を検討する中で、渡嘉敷村訪問を決めた」、1泊2日、2泊以上の宿泊をしている人では、「渡嘉敷村を訪問することをメインに、旅程を決めた」が比較的高く、宿泊の有無によって検討時期が異なる傾向があります。



情報源

情報源について、日本人・外国人ともに、「家族・友人・知人の口コミ」、「旅行情報誌・ガイドブック」、「渡嘉敷村内の人のSNS」が高くなっています。

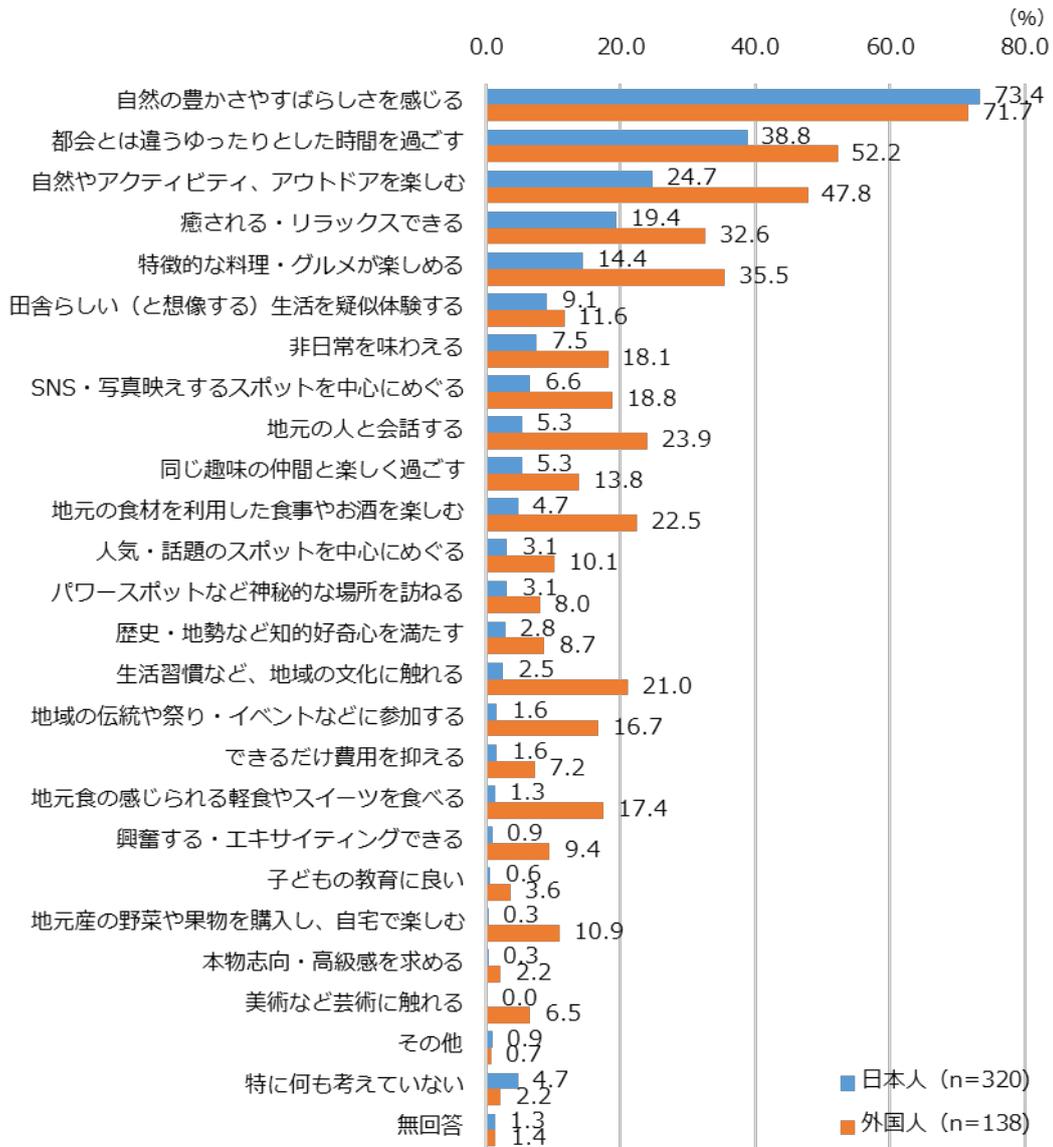
	旅行情報誌・ガイドブック	渡嘉敷村内の人のSNS	家族・友人・知人の口コミ	渡嘉敷村の人との直接のやりとり	旅行会社の窓口・パンフレット	テレビ番組・ドラマ・映画	新聞記事・広告	観光案内所(村外含む)	宿泊施設(村外含む)	その他	特に何も見えていない	無回答	
日本人	きっかけ	20.0	7.8	32.8	4.1	2.2	0.6	0.9	1.6	1.3	23.1	16.9	2.8
	計画時	25.3	13.4	25.0	2.8	2.5	0.3	1.3	1.3	1.6	19.1	20.9	4.1
	旅行中	20.3	9.7	19.7	9.4	3.1	0.0	0.6	4.4	3.8	12.5	19.4	15.0
外国人	きっかけ	22.5	15.9	22.5	6.5	7.2	5.1	7.2	10.9	4.3	12.3	5.1	27.5
	計画時	18.1	26.8	21.0	10.9	10.1	9.4	8.0	13.8	13.8	15.9	5.8	25.4
	旅行中	15.2	15.2	7.2	15.9	9.4	3.6	6.5	13.0	9.4	10.1	8.0	34.8

インターネットメディアの参照の有無について、日本人・外国人ともに「Instagram」、「インターネット上のブログ・口コミ」、「Google MAP等の地図サービス」が高い傾向にあります。また、「YouTube」は、きっかけ・計画時の利用が高くなっています。

	メルマガ	YouTube	TikTok	X(旧Twitter)	Facebook	Instagram	LINE	観光関連雑誌・書籍	インターネット上のブログ・口コミ	観光情報サイト	旅行会社のウェブサイト	渡嘉敷村のガイドや宿泊施設のウェブサイト	
日本人	きっかけ	1.9	20.0	5.0	6.9	4.7	22.5	4.4	5.9	21.3	16.3	6.3	8.4
	計画時	1.9	17.8	5.0	6.6	3.4	18.8	3.4	8.4	18.4	15.3	7.2	11.3
	旅行中	1.9	8.1	4.7	4.7	3.1	16.6	2.5	5.3	13.1	12.5	4.1	7.8
外国人	きっかけ	6.5	19.6	10.1	4.3	5.1	24.6	5.8	10.1	22.5	22.5	5.8	10.9
	計画時	8.7	26.8	10.1	5.1	10.1	23.2	6.5	12.3	23.9	21.0	8.0	13.8
	旅行中	2.9	6.5	4.3	0.7	2.9	15.2	2.9	6.5	13.0	13.0	2.9	10.9
日本人	きっかけ	11.9	1.6	12.2	4.7	23.1	3.4						
	計画時	13.8	1.9	13.4	3.4	25.9	3.8						
	旅行中	8.4	0.9	14.1	2.5	33.8	4.1						
外国人	きっかけ	10.9	4.3	18.1	2.9	4.3	21.7						
	計画時	16.7	9.4	24.6	2.2	4.3	24.6						
	旅行中	14.5	2.2	24.6	2.2	5.8	37.7						

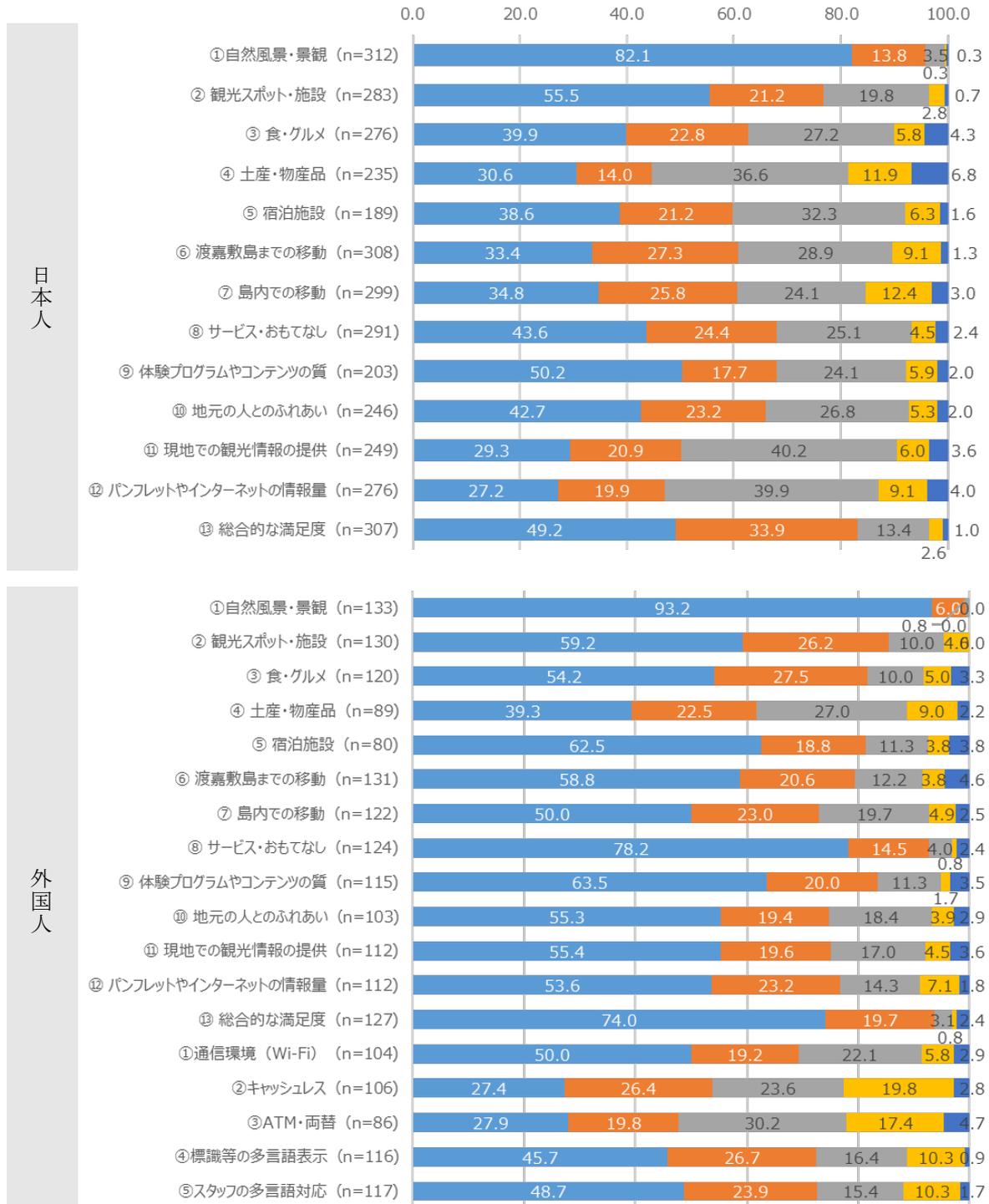
渡嘉敷村への観光・旅行を検討する際に重視すること

渡嘉敷村への観光・旅行を検討する際に重視することについて、日本人・外国人ともに「自然の豊かさやすばらしさを感じる」が7割を超えて最も高くなっています。



満足度

各項目の満足度についてみると、日本人・外国人ともに「自然風景・景観」が他の項目に比べて圧倒的に高くなっています。一方で、日本人における「土産・物産品」、「パンフレットやインターネットの情報量」、「現地での観光情報の提供」、外国人における「土産・物産品」、「キャッシュレス」、「ATM・両替」では満足とじている割合が他項目に比べ低い傾向にあります。



※「経験なし」、「無回答」を除く

■とても満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満 ■とても不満

2-5

渡嘉敷村の観光課題の整理

(1) 観光を取り巻く現状の変化への対応

新型コロナウイルスの感染症拡大による観光への影響は非常に大きいものでしたが、令和4年度以降、国・県・渡嘉敷村のいずれも観光客は回復傾向にあります。特に渡嘉敷村では欧米豪を中心とした外国人入域者数の割合がコロナ前を超える月も出てきました。一方で、観光客の価値観・ニーズ・動態もコロナ前とは変化しており、引き続き渡嘉敷村観光の魅力を最大限感じていただくために、プロモーション・受入体制をはじめ、これまでの観光振興の取組みを総合的に進化させていく必要があります。

(2) 自然環境保全・活用と国立公園ブランドの確立

渡嘉敷村において、自然環境は最大の観光資源でもあります。村民・観光客ともにこのすばらしい自然を守りながら、責任ある観光を推進していく必要があります。環境負荷を低減させることだけでなく、観光客の増加によって島を潤おわせ、自然環境もよりよい形で保たれていく好循環を生むことが重要です。慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム 2025 と連動しつつ、「ケラマブルーの世界」をゆっくりと満喫できる良質な旅の提供、持続可能な観光に資する質への転換、地域全体の経済活性化に資するブランディングが必要です。

(3) 観光客の滞在時間の延や消費額の向上

渡嘉敷村を来訪する観光客の多くはビーチ付近での滞在を中心とした日帰り観光となっており、観光客の飲食・土産購入額が少ない傾向にあります。一人あたり消費額を高めるためには、飲食・買い物ができる場所を増やす必要があります。また、年間を通じての入域者数（入域者数や宿泊者数）の平準化も引き続き重要な課題となっており、通年での誘客に繋がる魅力を備えたアドベンチャーツーリズム（AT）や夜間の観光メニュー開発、村内無人島の利活用等による新たな取組みが必要です。

(4) 「持続可能な観光」の推進

渡嘉敷村の観光振興にあたっては、「経済」、「社会」、「環境」のバランスを図りながら、村民・事業者・観光客各々が渡嘉敷村観光の持続可能性の実現に向けて、取組み・協力していく必要があります。「観光」を基軸に、自然環境や村に残る歴史・文化を守りながら、安全安心な住民生活を維持し、経済発展を実現させるとともに、観光客にとって魅力ある島としてあり続けることが求められます。

渡嘉敷村における「持続可能な観光」の実現イメージ



※UNWTO「観光と持続可能な開発目標」に基づき作成



近年、世界各国で持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）に対する関心が高まっています。SDGsは「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓い、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標であり、観光分野においても同様に”持続可能性”を意識した取組みの推進が世界共通の課題として認識されています。渡嘉敷村でも本計画及び「渡嘉敷村第5次総合計画」において、SDGsの考え方を取り入れています。

(5) 観光マネジメント体制の構築

今後、「持続可能な観光」を実現していくためには、観光関連のデータ等も活用しながら村の観光状況のモニタリングを通じて自然環境や住民生活への負荷等へも目を配りながら、観光客のニーズや動向の変化を把握し、事業機会や課題を捉えることが重要です。また、それらを必要に応じて村内の観光関係者に共有し、協議・連携・協働できる体制を構築することが必要です。その主体となる協議体や推進役を定めることも重要になってきます。

第 3 章 第二次渡嘉敷村觀光振興計畫



3-1 基本理念

基本理念は、本村の方向性や「持続可能な観光」のコンセプトを十分に包含していることから、前計画から踏襲し、更なる進化を目指します。

基本理念

心ふるえる夢島 とかしき ～この碧を100年先に結ぐ～

とかしきが有する豊かな地域資源、碧く輝く海、緑溢れる山、先人たちが歩んだ歴史、素晴らしい文化。

それらには、人の心をゆさぶり、心をふるわせるような魅力があります。

そんなとかしきの魅力を、住民も観光客も一緒になって、100年先に結いでいきます。

とかしきは、自然を大切に守り活かす場所。
一度訪れた人がまた来たくなる島時間が漂う場所。
誰もが大切に想い、心が満たされ愛着のある夢のような場所。

そんな「心ふるえる夢島」であり続けます。

3-2 基本方針

基本理念に基づき、展開する基本方針を次の通り整理します。

基本方針 1

自然との共生を目指した環境づくり 【自然環境保全・活用】

渡嘉敷村の最大の資源である豊かな自然環境を守り・活かしながら、観光に寄与する取組みを進めます。

基本方針 2

快適に観光でき、滞在できる受入体制づくり 【観光客受入体制】

観光客が快適に観光・滞在できる受入体制を構築し、再来訪してもらえるような取組みを進めます。

基本方針 3

渡嘉敷村全体を活用した四季折々の観光メニューづくり 【観光コンテンツ】

渡嘉敷村の有する様々な地域資源を効果的に活用しながら、年間通じて楽しめる観光コンテンツの強化を進めます。

基本方針 4

渡嘉敷村の特性を活かしたブランドづくり 【地域ブランディング】

渡嘉敷村の立地環境・特性を活かし、地域としての価値向上に向けたブランドづくりを進めます。

基本方針 5

渡嘉敷村の魅力を効果的に伝え、人を呼び込むプロモーション実施 【誘客プロモーション】

渡嘉敷村の魅力を、広く効果的に伝えていくとともに、渡嘉敷村に訪れたいくなるようなプロモーション活動を進め、リピーターを増加させていきます。

基本方針 6

地域経営の視点で稼ぐ観光を実現するマーケティング・マネジメント実施
【持続可能な観光地域づくり】

持続可能な観光を推進するために、自然環境・村民の生活環境とのバランスを図りつつ、多様化する観光客へのニーズの対応と島内消費拡大に向けた取組みを進めます。

3-3 基本施策と取組みの体系

基本理念に基づき、今後展開していく施策と取組みの体系は以下の通りとなります。

基本理念	基本方針	基本施策	具体的な取組み内容			
心ふるえる夢島 とかしき この碧を100年先へ結ぐ	1 自然との共生を目指した環境づくり 【自然環境保全活用】	① 環境保全の推進	① 世界基準の海の証明』に向けた環境保全の取組み ② 環境協力税の妥当性の検討			
		② エコツーリズムの推進	① 良質なエコツアープログラムの開発・実施 ② 渡嘉敷村の魅力活用に向けた取組み ③ 持続可能な観光』を推進する協議体の組成			
		③ 環境美化の推進	① 美化運動の実施 ② 廃棄物の削減に向けた取組み			
		④ 外来種への対策	① 生態系維持に向けた取組み ② 害獣の駆除・捕獲に向けた取組み			
	2 快適に観光でき、滞在できる受入体制づくり 【観光客受入体制】	① 観光客受入体制の整備	① 観光協会の自走化	① 観光協会の自走化 ② 質の高い観光案内の充実 ③ 外国人観光客への案内対応サポート支援 ④ 飲食店連携に向けた取組み ⑤ 働く人材不足の解消に向けた取組み ⑥ ふるさと学習を通じた観光人材育成の検討・実行 ⑦ 各種サービス状況の事前周知活動と継続的な整備充実 ⑧ 既存の観光・交流施設の維持管理の推進 ⑨ 船舶の予約サイトの改善 ⑩ 既存観光関連情報WEBサイトのあり方の検討 ⑪ 観光DXを推進する人材育成		
			② 交通網の充実	① 適正な船舶の運用体制づくりの推進 ② 慶良間諸島の周遊航路の検討 ③ 島内移動手段の検討		
				3 渡嘉敷村全体を活用した四季折々の観光メニューづくり 【観光コンテンツ】	① 観光メニューの創出	① 渡嘉敷村の観光資源を活用した体験メニュー・プログラムの創出・強化 ② 観光イベントの継続開催、及び新規の企画検討 ③ 観光ルートづくりの推進
						4 渡嘉敷村の特性を活かしたブランドづくり 【地域ブランディング】
			② 慶良間諸島全体としてのブランディング	① 慶良間諸島全体での観光振興への取組み		
			5 渡嘉敷村の魅力効果を効果的に伝え、人を呼び込むプロモーション実施 【誘客プロモーション】	① 情報発信の充実	② 誘客プロモーション活動の推進	① SNSを活用した定期的な情報発信 ① 修学旅行及び団体の誘客 ② 誘客イベントへの参加 ③ パンフレットやポスターの作成・配布 ④ デジタルコンテンツの拡充検討
						③ 交流活動の推進
				6 地域経営の視点で稼ぐ観光を実現するマーケティング・マネジメント実施 【持続可能な観光地域づくり】	① 観光消費額の拡大	② 持続可能な観光地域づくりを支えるマーケティング・マネジメント
			① 観光消費額の拡大			

3-4 具体的な取組み内容

基本方針 1

自然との共生を目指した環境づくり 【自然環境保全・活用】

(1) 環境保全の推進

取組み① 『世界基準の海の証明』に向けた環境保全の取組み

世界基準の海である証明ともなる認証の取得を目指します。その認証取得への過程で、客観的かつ専門的な環境保全指標に基づくビーチ等における課題の把握や多様な関係者による協議体を組成し、目標感の共有と取組みの推進を図ります。また、本取組みを通じて、知名度やブランド力の向上を図ります。

取組み② 環境協力税の妥当性の検討

観光による環境負荷の増加に伴い、各地で観光関連の税や協力金の導入・増額が検討されており、その必要性の理解も全国的に進んでいます。昨今の物価高・為替等の経済環境を踏まえ、持続可能な観光の実現に向けて環境協力税の金額の妥当性についてあらためて検討します。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①『世界基準の海の証明』に向けた環境保全の取組み			○	○	●	○	○	○
②環境協力税の妥当性の検討			○	○	●			

早期：急務な取組みや1～2年で行う取組み

中期：3～4年で行う取組み

長期：可能な範囲で5年以内に行う取組み

継続：既に着手しているが継続して実施する必要がある取組み

※上記内容は以降同様

運営主体：取組みの具体的な実行を担う主体。行政は実行にあたっての支援（財源・村内調整）を担う

※上記内容は以降同様

(2) エコツーリズムの推進

取組み① 良質なエコツアープログラムの開発・実施

幼児から大人まで、渡嘉敷村の豊かな自然の魅力を体験してもらい、自然の大切さと尊さを学んでもらう良質なエコツアープログラムや体験活動プログラムの開発を行い、実施します。また、観光客のニーズの変化を捉え、渡嘉敷村の自然・文化を活用した季節限定のコンテンツや宿泊に繋がる朝・夕の時間帯を活用したプログラムの開発を検討・実施することで、渡嘉敷村を取り巻く自然・文化環境や人々の生活が持続可能なものになる観光を目指します。そのプレイヤーとなる観光人材を育てる認定制度については想定される実施効果も含め、検討を進めます。

取組み② 渡嘉敷村の魅力活用に向けた取組み

渡嘉敷村の最大の魅力である自然環境を持続可能な観光資源として活用するために村民及び観光客が守るべきルールを設定するとともに、そのルールを周知・共有していきます。必要に応じ、ルール周知・共有の方法及び内容は継続的に改善していきます。

取組み③ 『持続可能な観光』を推進する協議体の組成

産業振興や自然環境・歴史文化の保全と活用をリードし、村民の安全安心な生活とバランスの取れた『持続可能な観光』を推進する中心となる官民連携の協議体を組成し、観光に取組む事業者・団体・行政間での情報共有・意見交換・連携を活性化させていきます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①良質なエコツアープログラムの開発・実施				○	●	○	○ 交流の家	
②渡嘉敷村の魅力活用に向けた取組み		○		○	●	○	○	○
③『持続可能な観光』を推進する協議体の組成	○				●	○	○	○

(3) 環境美化の推進

取組み① 美化運動の実施

村民との協力により、定期的に行われる「ゼロのつく日」の美化清掃とともに、地元ボランティアによるビーチや街中など村内のごみ拾い（年に3回）や、企業などのボランティア活動の支援を実施し、村内美化を目指します。

また、村民のみならず観光客も一緒になって環境美化を心掛ける機運づくり、ごみ箱の設置・回収含め、総合的な美化体制の推進を継続します。外国人観光客の増加に伴い、多言語での周知・共有を図ることも検討します。

取組み② 廃棄物の削減に向けた取組み

正しいごみの分別方法を村民・事業者にも周知することで、リサイクルできる資源ごみを回収し、ごみの削減を目指します。

また、廃棄物になりえるものはなるべく村内に持ち込まないよう村民及び観光客に協力を図ります。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①美化運動の実施				○	●	○	○	○
②廃棄物の削減に向けた取組み				○	●		○	○

(4) 外来種への対策

取組み① 生態系維持に向けた取組み

外来種が在来種に大きく影響を与えていることから、渡嘉敷村本来の生態系を維持していくため、防除など必要な取組みを推進します。

また、今後更なる被害を防ぐため、村民及び観光客に対して、外来種被害予防三原則「入れない・捨てない・拡げない」の周知・共有を図ります。

取組み② 害獣の駆除・捕獲に向けた取組み

渡嘉敷村内の農作物・在来種被害を減らすため、様々な仕掛けを講じていきながら、猪等の害獣の駆除や捕獲に向けた取組みを進めます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①生態系維持に向けた取組み				○	●			
②害獣の駆除・捕獲に向けた取組み				○	●			

基本方針 2

快適に観光でき、滞在できる受入体制づくり 【観光客受入体制】

(1) 観光客受入体制の整備

取組み① 観光協会の自走化

観光協会の自走化に向けた取組みの支援を行います。今後、観光協会が観光客誘致促進や観光客受入環境整備にとどまらず、渡嘉敷村の「持続可能な観光」の推進役として、村役場をはじめ、各団体・事業者と連携し、観光を軸とした自然環境や歴史文化保全、安全安心な住民生活の実現に向けて主体的に活動できるよう役割を明確化するなど、実効性を高めるための環境づくりを行います。

取組み② 質の高い観光案内の充実

観光客に渡嘉敷村の魅力をより深く知ってもらい、安全かつ快適に楽しんでもらうための知識とサービス精神を有し、高付加価値な体験を提供できる質の高い観光ガイドの育成を引き続き進めます。アドベンチャーツーリズムなど昨今の観光の潮流や観光客のニーズを踏まえたガイディングのための講習や、地域内外での情報交換の場づくりも行っていきます。

取組み③ 外国人観光客への案内対応サポート支援

欧米豪・東アジア諸国を中心に、外国人観光客の渡嘉敷村への来訪が増加傾向にあります。引き続き、村内の観光関連事業者に対して、外国人対応が可能な体制構築に向けた支援と整備を進めます。

取組み④ 飲食店連携に向けた取組み

昼食難民等の発生防止に向けた飲食店の連携協力を図り、安定的な営業が行える取組みを進めます。将来的には、入域者数データを村内で共有し、観光関連事業者がマーケティングに活用できるよう取組みの検討・実施を進めます。

取組み⑤ 働く人材不足の解消に向けた取組み

ホテルや民宿などの経営者の高齢化に伴う担い手や働く人材不足の解消に向けて、後継者育成や村内移住者の活用・マッチングを進めます。また、外国人観光客の増加に伴い、多言語対応可能な人材の確保に向けた取組みの検討と実施を進めます。外部からの人材確保に向けて、居住環境の整備充実を推進します。

取組み⑥ ふるさと学習を通じた観光人材育成の検討・実行

村の自然・歴史文化・観光産業施設の見学などを通じて、ふるさとへの愛着を高めるとともに主要産業である観光産業への理解を深め、観光振興に対する子どもたちの将来的な参画意識の向上を図ります。(SDGs や総合学習と連動)

取組み⑦ 各種サービス状況の事前周知活動と継続的な整備充実

渡嘉敷村での ATM やキャッシュレス対応、Wi-Fi 等の各種サービスの状況を観光客に事前に理解してもらう周知活動を継続します。

また、各種サービス機能の継続的な整備充実に向けて、関係機関との調整を検討・実施します。

取組み⑧ 既存の観光・交流施設の維持管理の推進

現状の観光・交流施設に対して、不備や破損等の有無を定期的に確認し、適正な施設の維持管理を推進します。

取組み⑨ 船舶の予約サイトの改善

船舶の予約だけでなく、発券・乗船までをデジタルで完結できるよう、決済機能と二次元バーコード等を利用したチケットレス乗船を可能とする予約サイトへの改修を検討し、実行します。

取組み⑩ 既存観光関連情報 WEB サイトのあり方の検討

村公式 WEB サイト・とかしきナビ、観光協会 WEB サイト等の利用状況や情報内容・機能を精査し、効率的なサイト運用を検討します。また、宿泊・飲食・アクティビティなどを一元的に予約できるサイトの必要性について見極めます。

取組み⑪ 観光 DX を推進する人材育成

観光事業者のデジタル推進による生産性向上と観光客の利便性向上に向け、外部の専門家による観光 DX のセミナー・勉強会を実施し、人材育成を進めます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①観光協会の自走化	○				●	○ 観光協会		
②質の高い観光案内の充実		○		○	●	○ 観光協会	○ 交流の家	
③外国人観光客への案内対応サポート支援	○			○	●	○	○	
④飲食店連携に向けた取組み	○			○	●	○ 観光協会	○	
⑤働く人材不足の解消に向けた取組み	○			○	●	○ 商工会		
⑥ふるさと学習を通じた観光人材育成の検討・実行		○			●			
⑦各種サービス状況の事前周知活動と継続的な整備充実	○			○	●	○ 観光協会	○	
⑧既存の観光・交流施設の維持管理の推進	○			○	●			
⑨船舶の予約サイトの改善		○		○	●			
⑩既存観光関連情報 WEB サイトのあり方の検討		○		○	●	○	○	
⑪観光 DX を推進する人材育成	○				●	○ 商工会		

(2) 交通網の充実

取組み① 適正な船舶の運用体制づくりの推進

今後の渡嘉敷村の適正な観光客数をしっかりと議論した上で、必要に応じた運用体制の構築を進めます。

取組み② 慶良間諸島の周遊航路の検討

国立公園を訪れる観光客がより楽しめるように、慶良間諸島周遊のためのルートづくり、ツアー、プログラム、イベントの企画検討と並行して航路を検討します。

取組み③ 島内移動手段の検討

老若男女問わず活用できる島内移動手段について検討します。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①適正な船舶の運用体制づくりの推進		○		○	●			
②慶良間諸島の周遊航路の検討	○			○	●	○ 観光協会	○	
③島内移動手段の検討	○			○	●			

基本方針 3

渡嘉敷村全体を活用した四季折々の観光メニューづくり 【観光コンテンツ】

(1) 観光メニューの創出

取組み① 渡嘉敷村の観光資源を活用した体験メニュー・プログラムの創出・強化

年間を通じ、農林漁業と連携し、渡嘉敷村らしい自然・歴史・文化を感じながら、島民とふれあえる体験メニュー・プログラムを創出します。国立公園としての魅力を活かしたエコツーリズム・アドベンチャーツーリズムや観光客のニーズを踏まえながら、宿泊者の増加にも繋がる観光コンテンツの創出と強化に取り組みます。また、村内の渡嘉敷・渡嘉志久・阿波連地区、それぞれの特性にあったコンテンツも検討します。

取組み② 観光イベントの継続開催、及び新規の企画検討

村内観光誘客イベントの継続開催を進めるとともに、新たな客層を呼び込める観光イベントの企画や既存イベントの工夫・改善を検討します。

取組み③ 観光ルートづくりの推進

国立沖縄青少年交流の家をはじめ、観光・教育施設を活用しながら、渡嘉敷村内の様々な魅力ある地域性を巡って楽しめる周遊観光ルートづくりの他、慶良間諸島の島々や渡嘉敷島を繋げる広域観光ルートの構築を進めていきます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①渡嘉敷村の観光資源を活用した体験メニュー・プログラムの創出・強化		○		○	●	○	○	
②観光イベントの継続開催、及び新規の企画検討	○			○	●	○		
③観光ルートづくりの推進	○			○	●	○ 観光協会	○ 交流の家	

基本方針 4

渡嘉敷村の特性を活かしたブランドづくり 【地域ブランディング】

(1) 渡嘉敷村としてのブランディング

取組み① 特産品（土産品）の開発

村内の特産品を活用し、渡嘉敷島でしか買えないもの、個包装されたものなど、観光客のニーズを踏まえた新たな特産品（土産品）を開発します。また、既存の商品とともに情報発信や販売促進に繋がる支援も行います。

取組み② 観光マナーの周知・徹底に向けた取組み

観光客に対して、渡嘉敷村内集落は生活の場であることへの理解促進を図るとともに、美しく綺麗な島の風景を守るためマナーの周知・徹底に向けた取組みを図ります。また、デジタルを活用するなど、旅前・旅中での新たな情報発信・案内方法についても検討していきます。

取組み③ 安全安心な観光に向けた取組み

渡嘉敷村での事故ゼロを目指し、観光客へのルールへの周知・徹底に向けた取組みを引き続き図っていきます。

取組み④ 地域ブランディングの構築に向けた取組み

渡嘉敷村を特徴づける独自性のあるブランディングを目指し、統一したイメージによるPR活動を推進します。また、国立公園としての価値や魅力が村内外でより認識されるための取組みを図っていきます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①特産品（土産品）の開発	○			○	●	○ 商工会		
②観光マナーの周知・徹底に向けた取組み		○		○	●	○	○	○
③安全安心な観光に向けた取組み				○	●	○ ダイビング協会	○	○
④地域ブランディングの構築に向けた取組み	○			○	●	○		

(2) 慶良間諸島全体としてのブランディング

取組み① 慶良間諸島全体での観光振興への取組み

環境省の国立公園ステップアッププログラムと連動し、慶良間諸島全体の環境保全と誘客・消費額の拡大、ブランディングに資する観光振興に取り組みます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①慶良間諸島全体での観光振興への取組み		○		○	●			

基本方針 5

渡嘉敷村の魅力を効果的に伝え、人を呼び込むプロモーション実施 【誘客プロモーション】

(1) 情報発信の充実

取組み① SNS を活用した定期的な情報発信

Facebook や Instagram 等の SNS を活用して、渡嘉敷村の魅力を定期的に発信し、プロモーションを図っていきます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
① SNS を活用した定期的な情報発信	○			○	●	○		

(2) 誘客プロモーション活動の推進

取組み① 修学旅行（及び団体）の誘客

修学旅行生をはじめ、団体客を呼び込むための営業活動と並行して、村内宿泊施設の現在の受入意向やキャパシティを把握し、今後の受入方針を協議する場づくりを行います。国立公園ならではの自然環境教育コンテンツや村の歴史文化を学べるプログラムを検討します。

取組み② 誘客イベントへの参加

渡嘉敷村の魅力が伝わり、誘客の効果が期待できる観光関連イベントを吟味・選択し、そのイベントへの参加により、渡嘉敷村観光誘客に向けた PR を実施します。

取組み③ パンフレットやポスターの作成・配布

村外での誘客プロモーション活動実施に伴って、費用対効果を見極めながら、渡嘉敷村の魅力を統一的なイメージを持って発信できる有効で適正なパンフレットやポスターを検討するとともに、必要に応じて作成・配布を行います。

取組み④ デジタルコンテンツの拡充検討

広告・PRに活用可能なデジタルコンテンツの拡充を検討します。統一的なイメージによるブランディングのためのキービジュアルや村内事業者が国立公園の魅力を訴求するための素材制作も検討します。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①修学旅行（及び団体）の誘客	○			○	●	○ 観光協会		
②誘客イベントへの参加	○			○	●	○		
③パンフレットやポスターの作成・配布	○			○	●			
④デジタルコンテンツの拡充検討	○			○	●	○		

(3) 交流活動の推進

取組み① 他自治体との戦略的な連携施策の検討

共通点のある他自治体や、需要と供給が合致する他自治体など双方にとって有益となる戦略的な連携施策を検討していきます。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①他自治体との戦略的な連携施策の検討		○		○	●			

基本方針 6

地域経営の視点で稼ぐ観光を実現するマーケティング・マネジメント実施

【持続可能な観光地域づくり】

(1) 観光消費額の拡大

取組み① 稼ぐ観光交流拠点づくり

渡嘉敷村の観光の魅力向上と消費額の拡大に向け、拠点となるターミナルの機能を拡張します。また、民間事業者による高付加価値な飲食・土産販売、企画イベントを実施し、村の高齢者や児童も楽しめるスペースとして拡充していきます。

取組み② 島内周遊と消費拡大を促す消費ポイント開発

観光客が買い物や飲食のできるポイントを新たに開発し、新たな島の魅力を提供することで、観光消費額を拡大させます。景観の良い立地でのサービス・商品提供やキッチンカーの取組みを支援します。

取組み③ 島の農林水産品を活用した新たなワンハンドフード・スイーツなどの開発

観光と相性の良いフォトジェニックなワンハンドフード(ソフトクリームやドリンク・スイーツ等)を、渡嘉敷の特産品を活用して、開発、展開します(=6次産業化)。素材となる農林水産品の供給力の把握や可能性調査も並行して実施します。

取組み④ 宿泊施設の高付加価値化など、多様化するニーズへの対応支援

観光消費額の大きい宿泊者を増加させるため、高付加価値化に繋がる受入環境整備の取組みを支援します。

取組み⑤ 商業施設の高付加価値化など、多様化するニーズへの対応支援

観光消費額の増加のため、商業施設の魅力向上に資する受入環境整備の取組みを支援します。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①稼ぐ観光交流拠点づくり		○			●	○ 商工会	○	
②島内周遊と消費拡大を促す消費ポイント開発	○				●	○ 商工会	○	
③島の農林水産品を活用した新たなワンハンドフード・スイーツなどの開発	○				●	○	○	
④宿泊施設の高付加価値化など、多様化するニーズへの対応支援	○				●	○ 商工会		
⑤商業施設の高付加価値化など、多様化するニーズへの対応支援	○				●	○ 商工会		

(2) 持続可能な観光地域づくりを支えるマーケティング・マネジメント

取組み① 観光マーケティングの推進

定期的な入域者数・宿泊客数データの把握やアンケート調査等から観光客のニーズや動向を分析し、誘客・観光消費額拡大のための機会や課題を捉え、各種取組みに役立てていきます。

取組み② 閑散期における誘客マーケティング戦略の検討・実行

閑散期の誘客に向けたマーケティング戦略を推進し、宿泊者の増加にも繋がる戦略を検討し、実行します。

取組みのスケジュールと運営

取組み	スケジュール				行政運営	運営主体		
	早期	中期	長期	継続		団体	事業者	村民
①観光マーケティングの推進	○				●	○ 観光協会	○	
②閑散期における誘客マーケティング戦略の検討・実行	○				●	○ 観光協会		

3-5

取組みの効果を検証するための目標値

取組みの効果を検証するための目標値は以下のように定めます。

(1) 渡嘉敷島を訪れる入域者数

渡嘉敷村観光振興の推進により、各月の入域者数の平準化に取り組みつつ、年間を通じた入域者数の増加を目指します。

現状値と目標値

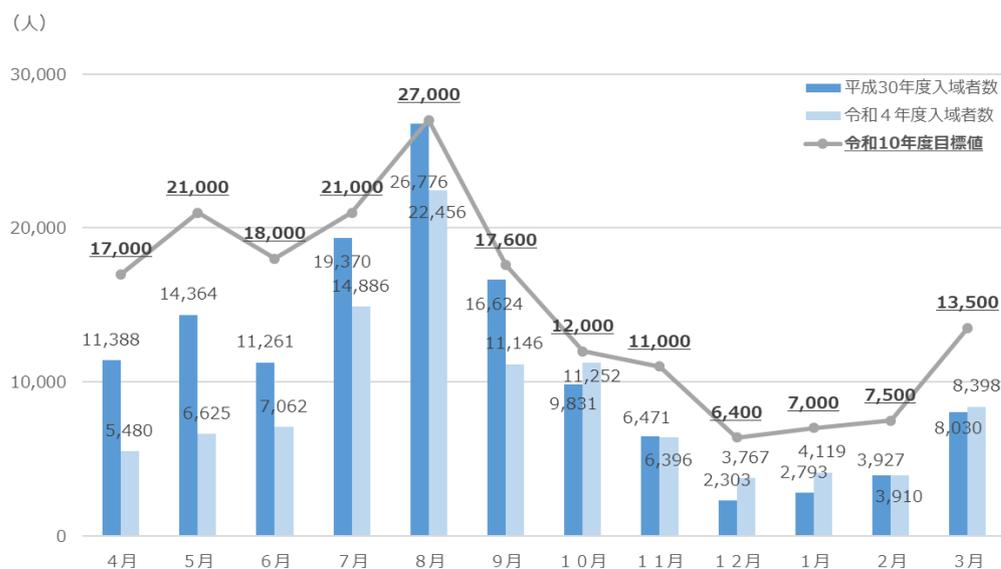
指標	現状値 (R4)	目標値 (R10)	調査方法
全体の入域者数	105,497 人	179,000 人 (約 73,500 人増加)	環境協力税データベースによる入域者数の集計
11月～3月の入域者数	26,590 人	45,400 人 (約 19,000 人増加)	
外国人の入域者数	9,099 人	36,000 人 (約 26,900 人増加)	
宿泊者数	—	10.0%増	※

※宿泊者数については、今後算出方法を検討する

※第6次沖縄県観光振興基本計画を踏まえ、コロナ前後の渡嘉敷村入域者数の推移を元に推計・算出した

※観光動向、村内事業者の受入体制、計画の各取組みの進捗具合等を総合的に考慮しながら、必要に応じて見直しを検討する

目標年度（令和10年度）の月別入域者数のイメージ



(2) 渡嘉敷村内での観光消費

観光客の価値観・ニーズ、動態の変化に合わせて受入体制を強化し、さらなる満足度の向上を目指します。

現状値と目標値

指標	現状値 (R5)	目標値 (R10)	調査方法
【飲食費】における一人あたりの消費額の増加(宿泊施設以外)	2,855 円	3,500 円	観光客アンケート調査実施 村内消費額(一人あたりの平均値)を算出
【買い物】における一人あたりの消費額の増加	1,761 円	2,500 円	

※無回答も利用なし(0円)として算出

(3) 村内観光における満足度の向上

観光客の価値観・ニーズ動態の変化にも対応しつつ、渡嘉敷村観光の魅力を最大限に感じていただくことを目指します。

現状値と目標値

指標	現状値 (R5)	目標値 (R10)	調査方法
村内観光における総合的な満足度の向上	全体: 83%	90%以上	観光客アンケート調査実施 村内観光における総合的な満足度(「とても満足」と「やや満足」の合算)

(4) 修学旅行の受入

新型コロナウイルス感染症拡大を機に減少した、修学旅行の受入に取り組みます。

現状値と目標値

指標	現状値 (R5)	目標値 (R10)	調査方法
修学旅行受入件数の増加	0 件	年間3 件	村または観光協会への申込実績

※受入体制については、別途村及び関連団体・事業者と調整

※全体の取組み内容としては、修学旅行生をはじめとした団体客の誘客も含まれる

(5) 村民の観光振興に対する考え

観光振興の取組みが推進されることによる村の経済・社会、生活環境の課題改善に関する村民の実感値の上昇を目指します。

現状値と目標値

指標	現状値 (R5)	目標値 (R10)	調査方法
観光振興の取組みに対する村民の実感値の上昇	30%	35%以上	村民アンケート調査実施 観光振興の取組みに対し、各項目の実感している割合（「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合算）の平均値

※上記の対象項目は、以下の通り

- ①雇用創出や産業活性化など渡嘉敷村の経済発展に貢献できている
- ②混雑など住みやすさに悪影響が生じないように配慮している
- ③環境（海や緑、ゴミのポイ捨て等）が悪化しないように配慮している
- ④観光振興により景観の保全や改善が進んでいる
- ⑤伝統文化・芸能が保存、継承されている
- ⑥道路等のインフラが整備されることにより生活が便利になっている
- ⑦商業施設が増えて生活が便利になっている
- ⑧地域や地区のイベント・祭りが活性化している

第4章 観光振興計画推進に向けて



4-1 推進体制

本計画の推進においては、行政はもちろん観光協会や、商工会、観光関連団体、観光事業者及び村民の連携・協力が必要となります。そのため、関係者すべてが本計画を共有するとともに、それぞれが果たすべき役割を理解することが重要です。また、実効性を高めるために、取組み内容については毎年評価を行い、必要に応じて見直しや改善に向けての協議を行います。

推進に向けて果たすべき役割

①行政の役割

役場内の関係部署との連携を図り、横断的な推進体制を構築するとともに、国や県をはじめ、座間味村などの関係市町村や観光団体、村内観光関係者及び村民との協議・調整を行い、全体の施策実現及び各取組みにおける運営主体を支援する役割を担います。また、毎年各取組みの進捗状況のチェックを行い、村内の観光関係者にフィードバックします。

②観光協会の役割

村内の観光振興に向けた取組みの中核組織として、村や村内観光関係者と密な連携や調整を図りながら、具体的な取組みに積極的に参画するとともに、情報発信、誘客のためのPR活動を行います。また、村を訪れる観光客の属性・動態・ニーズ等を把握し、村内に共有する体制構築を進めます。

③観光関連団体・事業者の役割

商工会をはじめ、村内の宿泊施設や飲食店、サービス事業者を含む観光関係者は、観光振興の現場での担い手として、主体的に各取組みを実施・推進します。変化が激しく、多様化する観光客のニーズに対応したサービス・商品の提供や施設の整備・維持管理を進めます。

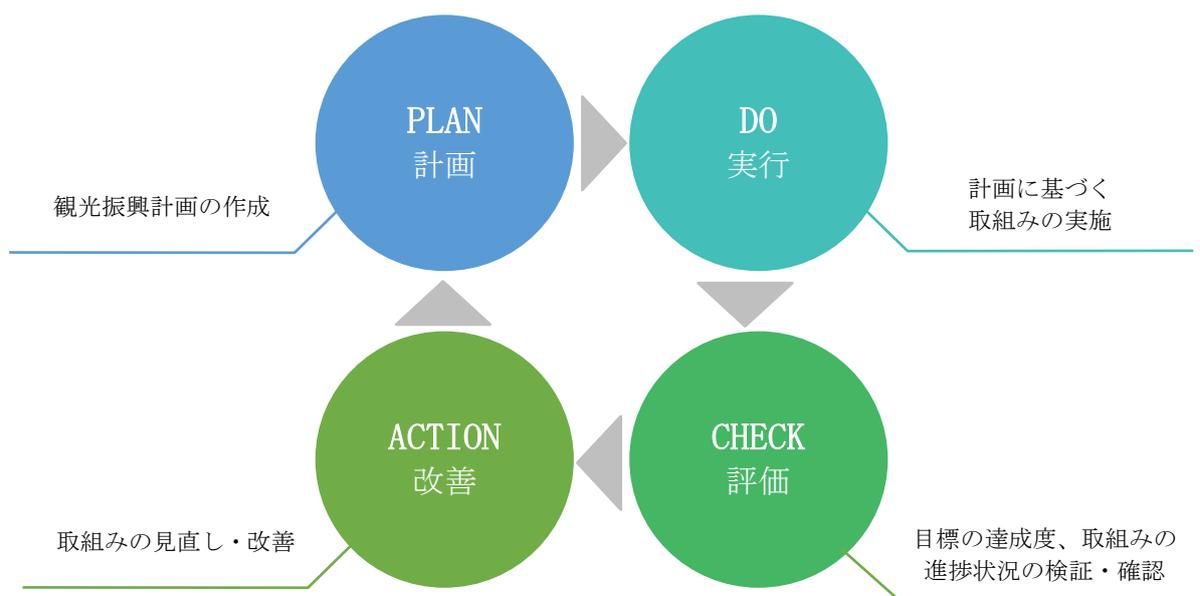
④村民の役割

村民一人ひとりが持続可能な観光地域づくりの担い手であることを認識し、観光振興計画の実現に向けて主体的に参加・協力するよう努めます。その結果として、村民の生活（教育や福祉、住環境面等）がより豊かになる取組みの一つが観光であることも認識します。また、地域の自然や文化、観光資源に関する知識を観光客や村民同士で共有することで、交流の促進とふるさと・地元への誇りを育んでいきます。

4-2 進捗管理

本計画で定めた理念と目標達成に向けて、「PDCA サイクル」の考えに基づき、進捗管理と効果検証を行います。これにより、効率的かつ効果的な方法で計画の着実な推進を図ります。

取組みの進行状況並びに効果検証については観光産業課が担い、毎年の進捗報告と計画期間中の中間報告(令和8年度)、計画最終年度(令和10年度)の最終報告を実施する予定です。その際は、取組みの進捗や村内の動向や変化に応じて、適宜、計画及び目標の協議・見直しを行いながら、着実に推進していきます。



第 5 章 資料



5-1 計画策定の経緯

本計画の策定にあたっては、4回の策定委員会を開催し、各種検討を行いました。前計画期間における観光に係る取組み状況の振り返り、村内外の観光動向を把握するために実施した各種実態調査結果や村内ヒアリングをもとに、策定委員会にて議論を行い、「第二次渡嘉敷村観光振興計画 2024-2028（案）」をまとめました。

この計画案について、令和6年2月28日から3月5日にかけてパブリックコメントを実施し、村内から寄せられた意見を反映した形で、最終的に「第二次渡嘉敷村観光振興計画 2024-2028」を決定しました。

年	月	策定委員会	その他	検討内容
令和5年	10		観光客アンケート 事業者ヒアリング	
	11	第1回 11/9	↓ 村民・事業者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ⅰ 「渡嘉敷村観光振興計画策定」について ・ 渡嘉敷村と村を取り巻く観光動向について ⅱ 渡嘉敷村観光振興計画 2018 の検証について ⅲ 観光振興計画策定業務スケジュール
	12	第2回 12/20		<ul style="list-style-type: none"> ⅰ アンケート調査結果（観光客）報告 ・ 委員からの意見集約について（グループワーク）
令和6年	1		↓	
	2	第3回 2/5 第4回 2/26		<ul style="list-style-type: none"> ⅰ アンケート調査結果（村民・事業者）報告 ・ 観光振興計画素案の提示と意見集約 ・ 観光振興計画素案の提示と意見集約 ・ 実施計画の検証方法の提示 ・ パブリックコメントについて
	3		パブコメ	
第二次渡嘉敷村観光振興計画 2024-2028				

5-2

計画策定の策定委員

(1) 渡嘉敷村観光振興計画策定委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、渡嘉敷村観光振興計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置し、渡嘉敷村観光振興計画を策定することを目的とする。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

(1)

観光振興計画の策定に関すること。

(2)

その他観光振興計画策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員19名以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者の内から村長が委嘱する。

(1)

学識経験を有する者

(2)

観光事業の運営その他観光に関し見識を有する者

(3)

行政

(4) 前各号に掲げる者のほか、村長が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、村長が委嘱した日から実施計画を村長に提言するまでとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務局)

第5条 委員会の事務局は、観光産業課に置く。

2 事務局員は村長が委嘱する。

3 事務局に事務局長及び事務局員を置く。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長1名、副委員長1名を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、最初にかかれる会議については、本条の要綱にかかわらず村長が招集する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(準備委員会)

第8条 渡嘉敷村観光振興計画の具体的な事項を検討するため、渡嘉敷村観光振興計画策定準備委員会（以下「準備委員会」という。）を設置することができる。なお、準備委員会の設置及び運営について必要な事項は別に定める。

(意見の聴取)

第9条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年10月1日から施行する。

(2) 策定委員会名簿

No.	役職	氏名	所属・役職
1	委員長	神里 敏明	渡嘉敷村 副村長
2	副委員長	新垣 聡	渡嘉敷村 総務課長
3	委員	新垣 立德	渡嘉敷村 民生課長
4		山城 淳	渡嘉敷村 船舶課長
5		尾崎 憲男	渡嘉敷村 会計課長
6		宇野 昭子	渡嘉敷村 教育課長
7		玉城 広喜	渡嘉敷村 議会事務局長
8		山里 望	国立沖縄青少年交流の家 所長
9		新垣 徹	渡嘉敷村商工会 会長
10		関根 史郎	渡嘉敷村観光協会 会長
11		玉城 一博	渡嘉敷漁業協同組合 組合長
12		小嶺 勉	渡嘉敷村農業委員会 会長
13		新垣 一典	渡嘉敷村社会福祉協議会 会長
14		嘉数 雄信	渡嘉敷小中学校 校長
15		西表 りか	阿波連小学校 校長
16		知念 優	渡嘉敷区 区長
17		平田 春吉	阿波連区 区長
18		西田 大河	渡嘉敷村青年会 会長
19		上田 嘉通	離島総合研究所 代表

5-3 パブリックコメントでの意見

2-2 渡嘉敷村観光振興計画の進捗評価について

ご意見内容	回答
1 達成の評価の基準を「C」までを高評価としている点は、やや視点の誘導を感じる。この場合高評価と判断するのは「A」「B」の2項目とした方が実際のだと思われる。「C」はあくまで半分しか達成しておらず、目標に至るまではこれまでと同等に近い力が必要ということなので、次期計画には未達の項目としてカウントすべきである。仮に「E」の後に「F 後退した」という項目があったとしたら違う結果も出ている可能性がある。	前観光振興計画期間中がコロナ禍であったこともあり、未達成の取組みも多い中、半分程度達成した取組みについても一定の進捗が見られたという意味で報告させていただいたという主旨になります。「C」につきましては高評価とまでは認識しておらず、今後一層の取組みが必要と認識しております。このことから、第二次渡嘉敷村観光振興計画（案）の当該ページについて変更は行いませんが、今後の進捗管理の段階であらためて検討させていただきます。

2-3 渡嘉敷村の観光状況（3）観光資源について

ご意見内容	回答
2 クロイワトカゲモドキはケラマトカゲモドキが正しい。	訂正のご指摘をいただき、ありがとうございます。該当箇所を修正させていただきました。

2-4 渡嘉敷村の観光関連調査結果（3）渡嘉敷村観光客アンケート調査結果について

ご意見内容	回答
3 【渡嘉敷村内で行ったアクティビティ】 ダイビングとシュノーケリングでは客層の違い、支出の差、ガイドの関わりの有無、再訪率などに大きな違いがあるため、一括りの設問にするのは適当でないと思われる。今後はアンケートに関わらずこの二つは別な項目とするべき。	今後、ダイビングとシュノーケリングについてはご指摘の違いを踏まえ、必要に応じて一括りにせず取扱います。
4 【消費額】 金額は一人当たりと考えて良いか？記載がないので条件を記載すべき。また解答からこれらがはっきりわからない場合設問を見直すべき。	金額は一人当たりとなります。観光振興計画（案）該当ページに追記させていただきました。今後のアンケートにおける設問検討や結果報告の際にも留意してまいります。

3-4 具体的な取組み内容

ご意見内容	回答
5 【基本施策 1-(1)-①】世界基準の海の証明に向けた環境保全の取組み 『世界基準の海の証明』に向けた環境保全の取組みの具体案として「ブルーフラッグ」取得を目指すのはどうか、入域数の増えつつある欧米豪に対して認知度も高い認証であるため、海外での渡嘉敷の認知度向上に効果的だと考える。	「ブルーフラッグ認証」の取得も一つの選択肢として検討を進めていきます。
6 【基本施策 1-(1)-①】世界基準の海の証明に向けた環境保全の取組み ブルーフラッグの取得が想定される。非常に重要なことだと思う。座間味村と協力し慶良間諸島全体として取得することが望ましい。	「ブルーフラッグ認証」の取得も一つの選択肢として検討を進めていきます。また、認証取得に取組む際に慶良間諸島全体での取組みとすべきか合わせて検討してまいります。

ご意見内容	回答
7 【基本施策 1-(2)】エコツーリズムの推進 この振興計画上では持続的な観光という言葉やATという言葉など、エコツアーという文脈で語られていた	「持続可能な観光」については、本計画の全体を包括する概念として認識しています。その中で、エコツアーも重要な取組みとして考えていることから、前計画

	<p>概念に対して、より進んだ考え方について言及されている。より新しく大きな概念を基本施策におくなどしておいた方が分かりやすいと思われる。</p>	<p>から継続した取組みとして設定しました。アドベンチャーツーリズム（AT）については、基本方針3-(1)-□渡嘉敷村の観光資源を活用した体験メニュー・プログラムの創出・強化において、その概念を踏まえていくことを掲載しております。</p> <p>このことから、該当の取組みである「良質なエコツアープログラムの開発・実施」の取組み内容に「持続可能な観光」の要素を含めるよう加筆し、以下の通りとしました。</p> <p>「また、観光客のニーズを捉え、渡嘉敷村の自然・文化を活用した季節限定のコンテンツや宿泊につながる朝・夕の時間帯を活用したプログラムの開発を検討・実施することで、渡嘉敷村を取り巻く自然・文化環境や人々の生活が持続可能なものになる観光を目指します。そのプレイヤーとなる観光人材を育てる認証制度については想定される実施効果を含め、検討を進めます。」</p>
8	<p>【基本施策2-(1)-①】観光協会の自走化 観光協会の役割として、『渡嘉敷村の「持続可能な観光」の推進 役として、村をはじめ、各団体・事業者と連携し、観光を軸とした自然環境や歴史 文化保全、安全安心な住民生活の実現に向けて主体的に活動できるよう役割を明確化するなど、実効性を高めるための環境づくりを行います。』とある。つまり本振興計画を進める上で、観光協会は、個別の事業者にとっては自身には関係ないと積極的に取り組みにくいことや、現状の行政の体制の中では進めにくかったり、マンパワーの不足により手をつけられずにいる施策などを、専門性や外部機関との連携や新しい情報などを活用し、これに当たっていくところを期待されていると読み解くことができる。</p> <p>この点から考慮し、観光協会は取り組むべき課題を行政や他の団体と共有し、担当分野を分担しながら、行政のみで取り組んだ場合より高い結果を出せるように努めることが自走化ということになる。つまりは、観光協会の運営については、あたるべき課題とその解決のための行動を行政と調整し、計画していく必要がある。ガイド認証の制度づくりや、1次産業との連携構築やブランディング構築への取り組みなど、収益は見込めないが重要な事業については、活動のための予算を組み、一括交付金等を活用し取り組むことが求められる。</p>	<p>観光協会の自走化にあたっては、ご指摘いただいたように、観光協会、その他観光関連団体と行政とで取り組むべき課題を共有し、役割分担や財源についても議論しながら進めていくことが重要と考えています。基本方針1-(2)-□『持続可能な観光』を推進する協議体の組成を進めることで、その場づくりを行っていきます。このことから、該当箇所については記載内容の変更は行っておりません。</p>
9	<p>【基本施策2-(1)-①】観光協会の自走化 他の地域の観光協会を見ても自走化しているところは極めて少ない。道の駅等で物販をしている事、指定管理業務を受けている事、ふるさと納税の受付発送業務を受託している事でもないと多くの収益を得ることはできない。収益事業以外にも案内業務等の非収益業務があり自治体からの支援は必須である。一歩進んだ観光協会は旅行業を行っているが、旅行業務取扱資格者と供託金が必要でハードルは高い。渡嘉敷村観光協会は過去に修学旅行の受託あっせんを行い利益を得ていたが、旅行業法的にはグレーゾーンである。観光協会が自走化のため営利活動のみを行うDMC（地域づくり会社）化すると、公的で非営利な案内業務を行わなくなり、役場がそれに代わり案内業務等の非営利業務を行わなければならない。観光協会に対する引き続きの支援が必要だと思う。</p>	<p>観光振興計画の実現に向けては観光協会の取組みが非常に重要となります。引き続き、行政と観光協会、その他観光関連団体の役割分担や現状の課題について共有・協議しながら、必要な支援を行っていきます。このことから、該当箇所については記載内容の変更は行っておりません。</p>
10	<p>【基本施策2-(1)-③】外国人観光客への案内対応サポート支援 全方位的なインバウンド誘致策より、ターゲットを絞ったインバウンド誘致策にすべきである。慶良間諸島</p>	<p>観光振興計画策定にあたって実施した調査でも欧米豪からの入域者数の増加が明確になっており、インバウンド誘致や受入について、欧米豪に加重した取組みを</p>

	の強みである欧米豪（特に欧州）への誘致活動と受け入れ態勢の整備を行うべきだと思う。	行っていくことも検討してまいります。該当箇所については記載内容の変更は行っておりません。
ご意見内容		回答
11	【基本施策2-(1)-⑨】船舶の予約サイトの改善 夏期は多くの日帰り客の予約で、宿泊客の予約が取れないことがあると聞く。日帰り客は1か月前、宿泊客は2か月前からなど時期をずらした予約受付にすべきではと思う。	予約サイトの機能検討やデジタルを活用した観光マーケティングの各種取り組みを検討する際に、参考とさせていただきます。該当箇所については記載内容の変更は行っておりません。

3-5 取り組みの効果を検証するための目標値

ご意見内容		回答
12	<p>【入域数目標値】</p> <p>本項の入域数のR10目標値は、179000人と約70%増となっている。これはこの振興計画のいくつかの点や村の現状に対しても矛盾している。P30観光振興の推進により、渡嘉敷村民として懸念することの解答にも、観光客の増加に対しマナーやごみや混雑などの不安が寄せられている。観光においては高付加価値化を目指し一人当たりの消費額の向上について言及している。また多くの訪問者の感じる訪問の目的や、感じた価値の上位に、「ビーチでのんびり」という回答があったことも注目せざるおえない。人手不足を感じている事業者も多く、住宅不足も解決しなければいけない課題である。</p> <p>こうした点を考慮し、実現可能な目標値を再検討すべきであると思われる。個人的にはこの入域目標人数は低くなり、一人当たり消費額の増大によりその積として総売り上げが上がることを共有する目的としたい。またこれらの数字は、人口に関する目標や、村の税收、船舶の売上や稼働率などにも大きく関係しているため、179000人が導き出された根拠となる材料に関しては記載すべきだと感じる。</p>	<p>入域者数のR10目標値については、ご指摘いただいたとおり、数値だけをみると、人手不足、住宅不足の課題を抱える中、ハードルの高い目標値に見受けられますが、第6次沖縄県観光振興基本計画を踏まえながら、コロナ前・コロナ後の渡嘉敷村の入域者数の推移を元にR10の入域者数を推計、算出した値を目標としております。繁忙期は過去の実績値と大きな乖離がない数値をイメージしております。一方で、長年の課題であった閑散期の底上げをより強力に推進することが重要であり、そのために各取り組みの着実な実行が必要であると考えています。上述の人手不足・住宅不足の課題への対応や、閑散期に人を呼び込むための四季折々のメニュー開発、DXの浸透による村内事業者の省力化・効率化が非常に重要になってくるものと考えています。他方、量から質への転換も持続可能な観光の推進の一つの大きなミッションでもあります。ご意見のとおり、一人当たり消費額を最大化することで、村内事業者の売上を増加させながら環境負荷の低減や住民生活の維持・向上することが観光振興において特に重要だと考えています。今回、目標値は観光振興計画（案）に記載のとおりを設定しましたが、今後の観光動向、村内事業者の受入体制、観光振興計画の各取り組みの進捗具合などを総合的に考慮しながら、必要に応じた見直しも必要であると認識しています。</p> <p>目標値算出の根拠となる材料については、該当箇所以下のように加筆しました。</p> <p>「※第6次沖縄県観光振興基本計画を踏まえ、コロナ前後の渡嘉敷村入域者数の推移を元に推計・算出した。※観光動向、村内事業者の受入体制、計画の各取り組みの進捗具合等を総合的に考慮しながら、必要に応じて見直しを検討する。」</p>
13	<p>【渡嘉敷島を訪れる入域者数】</p> <p>全体の目標値が多すぎる。オーバーツーリズムがさらに進むことが懸念される。宿泊者数の増加を図るべきだと思う。</p>	<p>入域者数のR10目標値については、ご指摘いただいたとおり、数値だけをみると、人手不足、住宅不足の課題を抱える中、ハードルの高い目標値に見受けられますが、第6次沖縄県観光振興基本計画を踏まえながら、コロナ前・コロナ後の渡嘉敷村の入域者数の推移を元にR10の入域者数を推計、算出した値を目標としております。オーバーツーリズムを抑えながら、今後増加が見込まれる入域者数に対応していくためには繁忙期ではなく、閑散期の入域者数を増加させることが重要と認識しています。また、ご指摘のとおり、滞在時間の延長や消費額の拡大には宿泊者数を増加させることが有効であることから、観光振興計画（案）内では、宿泊者数増加に資する取り組みを設定しています。今回、目標値は観光振興計画（案）に記載のとおりを設定しましたが、今後の観光動向、村内事業者の受入体制、観光振興計画の各取り組みの進捗具合などを総合的に考慮しながら、必要に応じた見直しも必要であると認識しています。</p>

4—1 推進体制

	ご意見内容	回答
12	ここに書かれている推進体制をぜひ維持していただきたい。観光協会の役割は大きいと思う。観光協会を維持するためには行政の支援継続は必須だと思う。	観光振興計画の実現に向けては、村内一丸となった推進が重要であり、現場のプレイヤー兼旗振り役を担う観光協会の取組みが特に重要となります。 第二次渡嘉敷村観光振興計画（案）における、推進体制について変更は行いませんが、引き続き、行政と観光協会、その他観光関連団体の役割分担や現状の課題について共有・協議しながら、必要な支援を行っていきます。

第二次渡嘉敷村観光振興計画

2024 - 2028

令和6年3月

沖縄県渡嘉敷村



2024-2028

第二次渡嘉敷村観光振興計画

令和6年3月 沖縄県渡嘉敷村